ISSN 1346-261X

国際子ども図書館の窓

子どもの本は
世界をつなぎ、
未来を拓く！

第4号
2004.3

表紙デザイン：熊谷　博人氏

≪国際子ども図書館活動風景≫

展示会
ギャラリートーク

科学遊び

配架整頓（第一資料室）

図書館ツアー

世界を知るセット

北欧セット

配架整頓（子どものへや）

<目次>

口絵　国際子ども図書館活動風景

はじめに　＝富田美樹子　2

「国際アンデルセン賞の軌跡」シンポジウム報告　3

「国際アンデルセン賞の軌跡」によせて　＝島　多代　5

展示会「未知の世界へ
－児童文学にえがかれた冒険－」＝展　示　班　8

児童サービスの現場から　＝島本まり子　13

特集　あなたの「思い出の１冊」探します！
◎－国際子ども図書館のレファレンス・サービス－
ストーリー・レファレンスを中心に　14

忘れられないレファレンス　＝杉山きく子　22

世界の児童書－蔵書紹介－
国際子ども図書館ロシア語児童書コレクション
－田中かな子旧蔵資料を中心に　＝松谷さやか　24

学校図書館セット貸出しの開始から１年が経過して(報告)　28

活動報告　34

数字で見る！国際子ども図書館　42

これから…　46

利用案内　47

はじめに

2000年に開館した国際子ども図書館は、今年開館5年目を迎えます。

国立国会図書館にとって初めての児童サービスを行いながら全面開館の準備に忙殺された最初の2年間、職員一同無我夢中で走り抜けた全面開館後の2年間でした。国立の初めての児童書専門図書館として、まずは存在感を感じていただきたい、子どもの本のさまざまな世界を楽しんでいただきたい、国内外の多くの方々との出会いと交流の場を提供したいと、これまで数多くの展示会や講演会などを企画開催してきました。展示会は、第一期開館の年には6回、2年目は2回、全面開館の年には4回、今年度は5回開催して、沢山の来館者を迎えました。また、その多くを海外や国内の関連機関と共催することで、国際子ども図書館の活動に理解と関心を持っていただくと同時に、私たち職員も各機関の多彩な活動から多くを学ぶことができました。

国際シンポジウムも、これまでに3回開催しました。全面開館の年には「昔話から物語へ」と題して、児童文学の土壌となっている昔話を取り上げ、長い年月の検証を経て語り継がれてきた昔話は、民族や時代を超えて共通する、普遍的で骨太な骨格を持っていることを学びました。翻って、新しい児童文学を将来に受け継いでいくためには、私たちが優れたものを選ぶこと、そして子どもたちに伝えていくことが必要です。IBBY の国際アンデルセン賞は、まさに50年にわたって「選ぶ」ことを行い、優れた子どもの本とは何かを具体的に提示し続けてきました。今年度開催した国際シンポジウム「国際アンデルセン賞の軌跡」では、この「選ぶ」作業が世界中の子どもの本に関わる人々の膨大なエネルギーの積み重ねの上に行われていること、また読書が人生にいかに深い意味を持つかについて、豊かなお話を伺うことができました。私たちの活動に、ひとつの方向性が示唆されたと言えるでしょう。

国際子ども図書館ではこれらの活動に加えて、館外の方々にご協力をいただきながら、蔵書の充実と書誌情報データベースの拡充に努め、児童書のナショナルセンターとしての基盤整備を図ってきました。本号では、当館のレファレンス業務についてご紹介しています。開館5年目となる2004年度は、展示会は独自企画の2本として、図書館サービスの一層の充実に努めるとともに、将来の発展の方向性を見極めたいと考えております。今後とも皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

2004年2月　　　国立国会図書館国際子ども図書館長　富田美樹子

「国際アンデルセン賞の軌跡」シンポジウム報告

平成15年12月1日(月)、東京国立博物館平成館大講堂において、国際シンポジウム「国際アンデルセン賞の軌跡」を開催しました。これは、国際子ども図書館において開催した展示会に関連したもので、悪天候にも関わらず約220名の方の参加がありました。

当日は、皇后陛下にご臨席いただき、黒澤隆雄国立国会図書館長、亀田邦子日本国際児童図書評議会（JBBY）会長の開会挨拶の後、富田美樹子国際子ども図書館長の総合司会のもとに、第1部では外国人講師3名による講演、第2部では島多代氏をモデュレーター、外国人講師3名をパネリストとするパネルディスカッションが行われました。

○講師紹介

・リーナ・マイセン<Leena Maissen>
（国際児童図書評議会（IBBY）前事務局長）
ヘルシンキ生まれ。ヘルシンキ大学とカリフォルニア大学で英仏語学、比較文学を学ぶ。バーゼルに IBBY 事務局が開設されて以来30年余事務局長を務める。各国支部との連絡や国際会議、国際賞のコーディネートにあたるほか、IBBY 刊行物の編集を手がける。IBBY50周年バーゼル大会実行委員長。

・ジェイ・ヒール<Jay Heale>
（2000年、2002年国際アンデルセン賞審査委員長）
英国生まれ。オックスフォード大学卒業後、教師となり、30歳の時、南アフリカに渡る。その後、子どもの本の作家として活躍、著書は33作にのぼり、雑誌『Bookchat』の編集も手がける。南アフリカ児童書フォーラムの設立を主導。1996年より国際アンデルセン賞審査委員、2000年度、2002年度は審査委員長。

・エイダン・チェンバース<Aidan Chambers>
（2002年国際アンデルセン賞<作家賞>受賞者）
英国生まれ。早くから文筆を志すが、作家への道は遠く、海軍に勤めた後、グラマー・スクールで英語と演劇を教えるかたわら英国国教会の修道士を7年間務める。やがて児童劇の脚本や、幽霊物語の短編集などを出版。1978年の『ブレイクタイム』から1999年の『二つの旅の終わりに』に至る5冊のヤングアダルト小説で人気作家となる。

・島多代<Tayo Shima>（国際児童図書評議会（IBBY）前会長）

東京生まれ。聖心女子大学英文科卒業。至光社編集部勤務。世界の絵本の収集、絵本史の研究を開始。1981～85年米国議会図書館児童書センター・コンサルタント、1987年から日本国際児童図書評議会理事等を歴任。1988年ミュゼ・イマジネール（私設絵本デザイン資料館）設立。1989～91年ブラチスラバ国際絵本原画展国際選考委員。1990年から国際児童図書評議会理事、副会長を歴任。1994年～東京芸術大学美術学部デザイン科非常勤講師。1998年～2002年国際児童図書評議会会長。

○各報告

第１部（13：00～14：30）

リーナ・マイセン氏は、30年間に亘る事務局長としての経験から国際アンデルセン賞の創設と歴史、システム、審査の方法について講演され、ジェイ・ヒール氏は、国際アンデルセン賞の選考システムと審査基準に関して具体的に説明され、審査委員及び審査委員長の大変な労力と重責について理解することができました。

エイダン・チェンバース氏は、ご自身の本を書くきっかけ、書くプロセス、などをお話しされました。現在執筆中の本 *This is All the Pillow Book of Cordelia Ken* についてもご紹介があり、完成が待ち望まれます。

第２部（14：45～17：00）

３人の講師に対して、島多代氏から、①本の好きな子どもだったか ②自分に大きな影響を与えた本があるか ③人生において本が果たしうる役割があるか。という興味深い質問がなされました。

リーナ・マイセンは、子どもの頃、扁桃腺手術の失敗から一時的に声を失い、アンデルセンの『人魚姫』を読みながら人間の言葉を話せない人魚姫に自分を重ねたそうです。ジェイ・ヒール氏は、教師としての立場から、子どもが自分から本に手を伸ばしていくための方法を話されました。チェンバース氏は、９歳まで本(文字)が読めず、ある日突然、読めた時の驚きをお話され、会場には目頭を押さえる方の姿も見受けられました。

最後に富田国際子ども図書館長が、悲惨な状況も含めて現代の多様な世界に生きている子どもたちと本との良い出会いを手助けするために連携していきたい、そのための旗印が国際アンデルセン賞であると締め括り、シンポジウムは、幕を閉じました。

「国際アンデルセン賞の軌跡」によせて

国際児童図書評議会前会長　島　　多代

子どもの本の作者とは誰か

2003年12月１日に国際子ども図書館と日本国際児童図書評議会（JBBY）の主催で「国際アンデルセン賞の軌跡」というシンポジウムが開催されました。国際アンデルセン賞とは、国際児童図書評議会（IBBY）が50年間継続してきた国際賞で、子どもの本の作者に、その生涯をかけた業績にたいして贈られてきました。シンポジウム第１部では、IBBY 前事務局長リーナ・マイセン（スイス）から国際アンデルセン賞運営の過去30年について、1998年から2002年まで国際選考委員長を勤めたジェイ・ヒール（南アフリカ）には選考過程について、2002年度作家賞を受賞したエイダン・チェンバース（英国）からは、「子どもの本の作者とは誰なのか」を熱く語ってもらうことが出来ました。

もちろん、子どもの本の作者は多種多様なかたちで存在してきました。受賞した作家たちの経歴や生涯をみると、ほとんどの場合、稀にみるほどの厳しい子ども時代を経ているように思えます。人間が生き残るためには、パンと本が同時に不可欠であることを、作者たち自身が、これほど如実に示している例はないと思われます。子どもたちはいつ、どんな時代においてもそれぞれに生き残りをかけていて、その魂の栄養となる本の質の確保が、どれほど必要かということが痛感させられました。

「あなたは本が好きな子どもでしたか？」

これは、シンポジウムの第二部のパネルディスカッションで、モデュレーターとして、私が講演者の方々に訊ねた最初の質問です。マイセン女史とヒール氏は知的階層に生まれ、自然に本に囲まれて育った、ということでした。ところが、作家のチェンバース氏の答えは、次のようなものでした。

わたしは炭坑の町で生まれ、家に本が５冊しかありませんでした。９歳のとき、先生が読めと言って渡してくれた本がありました。それまで、本を手にしたことはほとんどありませんでした。夕食後、父はいつものように暖炉を背にまどろみ、母はアイロンをかけていました。わたしは、はじめその本をぼんやり見ていましたが、突然、頭の中でいろいろな声が聞こえたのです。父が眼を覚まし、就寝時間を過ぎてまだ起きていたわたしを見て「何してんだ！」と怒鳴りました。そのとき、「あんた！エイダンが何してると思ってんの？見てごらん、この子は本を読んでるんだ

よ！」それまで、のろまと呼ばれるほど出来が悪かった息子が本を読む姿を初めて見て驚いている当時の勤労者階層出身の両親の様子が、あざやかに伝わってくるような話でした。

「成長期に内的影響があったと考えられる本がありましたか？」という質問に対して、アンデルセンの「人魚姫」をあげたのは、マイセン女史でした。彼女はフィンランドの生まれでしたが、ソビエト連邦がフィンランド占領を始めた幼時に、スウェーデンの知人の家に弟と共に疎開させられた、ということです。そこで、あるとき、彼女は喉を痛め、病院で手術をされ、声帯を傷つけられ、声を失った彼女は、社会との対話がとぎれた、といいます。その経験は、「人魚姫」を自分のこととして読む素地をつくったということです。大切なもののために、何かを失わなければならないことがある、という経験に結びつくのは、ずいぶん後のことだったと思われますが。

英国で育ったヒール氏は、自分は夢見る少年だった、と語りました。回りの大人たちは、夢見ることを許してくれなかったので、本に顔をうずめていつも夢見ていたそうです。大人にとって、子どもが夢を見ることは悪いことで、本を読むことは良いことだった、とヒール氏は語りましたが、本なら何でもいいというのは、普遍的な大人の愚かさの図式のようです。そして、彼を夢から起こしたのが、アーサー・ランサムの冒険物語に登場する自分と同じような少年たちの姿だった、と語りました。

家にあった、たった５冊の本の一冊『イソップ物語』の「兎と亀」は、自分がいつものろまだったからなのか身近な物語だったと、チェンバース氏は語りました。しかし、本当に彼の一生を決めたのは、彼が15歳の時に読んだD.H.ローレンスの『息子と恋人』だった、ということです。何故なら、最後の頁を読んだとき、自分は小説家になることを決意していたからなのだ、その理由は、自分が書くべき小説がすでに書かれてしまっていた、と思ったからだ、と彼は言いました。

「周囲の大人であなたの読書に影響を与えた人がいたら、その人について話してください」という最後の質問に対して、エイダン・チェンバース氏の読書に至る道のりは興味ある話でした。のろまと刻印されていたエイダンも、それ程のろまではない、と先生たちが気がつき始めていたころ、家が引っ越しをしたそうです。たまたま転校した学校で最初に友だちになった少年が、読書家でいつも図書館へ通っていました。エイダンは図書館というものが存在することすら知りませんでした。その少年は、エイダンを一緒につれていけば本が二倍借りられるということで、いつもエイダンを誘って図書館に行ったということです。同時に、新しく通い出した学校には、オズボーン先生という国語の先生がいました。

その先生がエイダンを、シェイクスピアの劇に導き、英文学の世界に目を開かせ

たのでした。

「私の小説の中には彼が実名で現れます。彼は私の本当の意味での父親でした」と語りました。チェンバースの著作『おれの墓で踊れ』の中で、主人公のハルが憧れていた兄貴分バリーの事故死のあと、自分を取り戻すために、何が自分に起こっていたかを文章に書きとどめていく作業をさせることの出来た大人の登場がここにありました。チェンバースが、新しい子どもの本の作者として、大きく特徴づけられるのは、この大人のはっきりした役割の位置付けだと私は考えます。21世紀に子どもたちがどのようにして育つかを、真に道徳的、宗教的な立場で追及する作家の登場のように思われるからです。

国際アンデルセン賞

国際アンデルセン賞が小さなノーベル賞と呼ばれても、その運営内容は大きく異なります。ノーベル賞では候補者が発表されませんが、国際アンデルセン賞では、各支部から推薦された候補者のリストを世界中に発表し、これら候補者の推薦理由などを含むすべての書類が公開されます。ノーベル賞が毎年、多額の賞金とともにスウェーデン国王により授与されますが、国際アンデルセン賞は隔年、IBBY 大会開催地において賞状とメダルだけが贈られます。アンデルセンの生地デンマークのマルガレーテ女王が名誉総裁ですが、授与式には列席されません。

国際審査委員は、各支部より推薦された審査委員候補から、審査委員長の推薦のもとに国際理事会において選びます。審査委員達は審査会までの六カ月間、世界各地から送られてくる各候補者の生涯にわたる子どもの本への貢献をその作品で綿密に読みこみ、審議に備えます。ほぼ、理解不可能なほど難儀で重い国際審査委員の無償でなされるこの仕事は、いわば子どもの本に関わる人々の仕事の象徴ともいえます。しかし、審査会の後、委員達が感じる、あの、素晴らしいものに触れ、はじめて知り学ぶことがまだこんなに多くあった、という不思議な充足感が、この仕事を継続できた最大の理由のように思います。各地から推薦される偉大な子どもの本の中には、人間の限りない可能性が、じつに豊穣に盛り込まれているからです。

情報と市場戦略に翻弄されながら､真に価値あるものをいかに次代に伝えるかは、ひとえに私たち個人個人の努力と情熱なしには成立しないということを忘れるわけにはいきません。過去50年の間に、世界中からの応募に応えて、隔年たった一人ずつの国際アンデルセン賞作家賞・画家賞を選出するという難しい作業の結果は、選出された作者リストが自ずと語っています。それはまさに、子どもの本が、人類に共通する生きる希望を灯として掲げる役割を、文化、宗教、言語の違いを越えて果たしてきたという証明となるのではないか、と考えます。

子どもの内的な成長なしに社会の未来はなく、そのために書き続ける子どもの本の作者を称えてきたのが、国際アンデルセン賞の軌跡です。

（しま たよ）

展示会「未知の世界へ
－児童文学にえがかれた冒険－」

はじめに

19世紀末から20世紀前半にかけて、欧米そして日本でも冒険小説が盛んに出版されました。日常の狭い枠の中で生活する子どもたちは、冒険小説に描かれた主人公の、海洋や秘境、あるいは異国での驚異的な活躍に胸を躍らせました。冒険小説は、列強の植民地主義や戦争など時代の産物であり、19世紀後半に隆盛を迎えますが、社会的な背景の変化や科学技術の急速な発達とともに、次第に魅力や勢いを失っていきました。しかし、冒険は現代でも形を変えて生き続けています。

国際子ども図書館は、その所蔵資料を中心に、こうした冒険小説の流れをたどり、冒険小説の魅力を探る展示会「未知の世界へ－児童文学にえがかれた冒険－」を開催しました。７月19日(土)から11月９日(日)の会期中、３万２千余の人が訪れました。

個々の展示資料などの詳細については､展示会図録をご参照いただくこととして、本稿では、展示会全体の内容を報告いたします。

１．展示会の構成

西洋と日本の冒険小説の歴史をたどる第１部と、子ども向けのさまざまな冒険小説を、物語の舞台によって分類した第２部、当館所蔵の２つのコレクションを紹介するコーナーの３部で構成しました。

◆第１部「冒険小説の誕生」

西洋の文学にリアリズムが芽生えた18世紀、探検家や旅行家が報告する未知の世界に創作意欲を刺激された作家たちは、冒険を小説の形をとって登場させました。1719年、デフォーがスコットランドの水夫の体験をもとに創作した『ロビンソン・クルーソー』がその最初といわれ、各国で大きな反響を呼び、子ども向けの抄訳とともに、ロビンソネイドといわれる模倣作品が多数出版されました。

The life and strange surprizng adventuers of Robinson Crusoe of York, mariner. 1790 (KS154-A31)

一方、日本の冒険小説は、江戸時代末期の『ロビンソン・クルーソー』の翻訳『漂荒紀事』(黒田行元訳　嘉永元)および『魯敏遜漂荒紀略』(横山由清　安政4)の出版により広まったといわれています。四方を海に囲まれた日本に、独自の冒険小説がなかなか誕生しなかったのは、鎖国政策の影響が大きく、海の向こうは危険が横たわる未知の世界と漠然と想像されていたからに違いありません。しかし、明治政府の誕生とともに芽生えた国家意識は、海の彼方の国々への関心を高め、日本独自の冒険小説を生み出そうとする機運が現われました。雑誌『冒険世界』(明治41)の主筆を務めた押川春浪がその推進力となり、また桜井鴎村は『世界漂流譚』シリーズを訳出し、冒険小説を広めました。その後、冒険小説は南洋一郎や高垣眸をはじめとする作家たちによって、大正時代とともに登場した『少年倶楽部』(大正3)を舞台に百花繚乱たる世界を繰り広げました。

『航海奇譚』　押川春浪　大学館　明治34（YDM93640）

この流れに従って、西洋の部では、デフォーを筆頭に、19世紀の冒険小説絶頂期の英米の作家たち、クーパー、マリアット、キングストン、リード、バランタイン、ヘンティ、スティーブンソン、ハガード、ドイル、キプリングを、さらに20世紀のハーバート・ストラング、ブレアトンをとりあげ、ヨーロッパ大陸ではベルヌ、ヴィース父子、そして北米のトウェイン、シートンの代表的な資料を展示しました。日本の部では、押川春浪、桜井鴎村、南洋一郎、吉川英治、大仏次郎、高垣眸、海野十三、平田晋策、山中峯太郎、野村胡堂、蘭郁二郎、江戸川乱歩をとりあげ、出展資料は114点に及びました。

また、講談社からは、これら日本の作家とコンビを組んで誌面を飾った椛島勝一、柳川剛一らの挿絵を借用し、展示に華やかな彩りを添えました。

◆第2部「さまざまな冒険」

冒険小説は、かつての海洋や秘境の探検などから、主人公が犯罪や不正に立ち向かう「人間社会」を舞台にしたもの、また日常生活の中の冒険が描かれるなど、内容が多彩になってきました。

第2部では、第1部で取り上げた古典的な作品を軸に、これまでに出版された子ども向けの冒険作品85点を、冒険が起きた舞台やテーマで「無人島」「海洋」「秘境」「異国」「災害・事故を切り抜ける」「宝探し」「謎解き」「遊びから冒険へ」「冒険の広がり」の9つに分類して紹介しました。世界地図のパネルを作成し、冒険の起きた場所や主人公の移動の経路をわかりやすく、地図上に表示しました。

パネル　物語の舞台２　海洋の地図

また、無人島のコーナーには、「無人島物語」と題して、『ロビンソン・クルーソー』や『孤島の冒険』など８作品をとりあげ、主人公が無人島に漂着した時の持ち物、火のおこし方、住んだ場所、食糧、生活のために工夫して作ったものなどを表に作成しました。これらの地図や表は、各作品を調べて独自に作成したもので、来場者には好評でした。

◆コレクションコーナー

当館所蔵の「イングラムコレクション」、「池田宣政（南洋一郎）コレクション」の概要を紹介するコーナーを設けました。

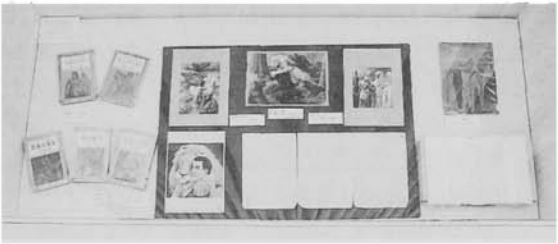
① イングラムコレクション

18世紀～20世紀に、イギリスで出版された児童書1,157冊からなる本コレクションは、イギリスのヘレフォード大聖堂主教座名誉参事会員であったエドワード・ヘンリー・ウィニングトン・イングラム（Edward Henry Winnington-Ingram, M. A. 1849-1930）師が、「ヴィクトリア朝時代の道徳的・精神的価値観に沿った児童文学」をテーマに19世紀後期から収集したものです。ヴィクトリア朝は冒険小説の絶頂期で、植民地主義を背景に、マリアット、バランタイン、ヘンティ、キングストンなどの人気作家が、多作を誇っていた時代だったため、コレクションの１割以上を冒険小説が占めています。本コレクションから、当時の人気作家たちの作品約30点を第１部に、また、特色ある作品43点を当コーナーに展示しました。（註１）

② 池田宣政（南洋一郎）コレクション

戦前戦後50数年にわたり人気作家として活躍した池田宣政氏の著作509冊と、執筆の参考にした資料361冊からなる本コレクションは、平成13年に、池田宣政氏のご遺族から寄贈を受けたものです。

池田宣政（南洋一郎　1893-1980）は、池田宣政の筆名で『形見の万年筆』、『リンカーン物語』などの感動美談や伝記物語を執筆する一方、南洋一郎の筆名で冒険小説を執筆し、「吼える密林」、「緑の金字塔」、「バルーバの冒険」など多数の作品を著しました。コレクション中の著作383点のうち、南洋一郎名の著作(冒険小説)が205点を占めています。また、翻訳や執筆の参考にした洋書にも冒険小説が多数あります。本コレクションから10点を第１部に、資料28点とご遺族から借用した自筆原稿、挿絵原画、愛用の品々などを当コーナーに展示しました。(註２)



２．展示会関連イベント

展示会関連行事として講演会を２回、ギャラリートークを６回開催しました。(日程等は本誌34ページ以降の活動報告を参照)

講演会では本展示会のテーマである「児童文学にえがかれた冒険」について、冒険小説に造詣の深い二上洋一、神宮輝夫の両氏に講師をお願いしました。

二上氏は、日本の冒険小説に焦点を当て、編集者として多くの冒険小説作家と接したご経験から、活字からは覗えない作家の人間像や作風を、エピソードを交えながら語られました。神宮氏はロビンソン・クルーソーに始まる西洋冒険小説の流れとその広がりを時代背景と関連付けながら、その魅力を語られました。いずれも当館所蔵の２つの特別コレクションの紹介を兼ねて、展示会の理解をより深めたと好評でした。講演の記録は国際子ども図書館ホームページに掲載されていますのでご覧下さい。

ギャラリートークには、123名の参加者がありました。各回30分ほどの時間で、展示担当職員が会場を案内し、各コーナーに掲出したテーマの説明や解説パネルに掲載しきれなかったエピソードの紹介などを行いました。参加者からは、資料の理解が深まったとの意見が寄せられています。

なお、会場では、展示会図録『未知の世界へ－児童文学にえがかれた冒険－』を販売しました。展示会同様、第１部「冒険小説の誕生」、第２部「さまざまな冒険」、「コレクション紹介」の３部構成になっており、展示資料の写真を多数掲載しています。国際子ども図書館の資料室でもご覧いただけます。

3．アンケート結果

会期中、会場でアンケートを実施しました。397名の回答者の内訳は、男性119名、女性278名です。来館者層は、小学生が80名と最も多く、以下多い順に30代、40代、大学院生、中学生、60代、高校生、70代、80代以上となっています。来館のきっかけは、館内で知ったが148名、以下、公園内看板、ホームページ、友人・知人から、新聞雑誌、ポスター・チラシの順です。来館回数は、初めてが310名、再来館が83名でした。二度以上来館している人が、来館者全体の20％を占めています。展示会の印象は、「おもしろかった」298名、「ふつう」75名、「期待したほどではなかった」17名であり、概ね好評でした。寄せられた感想からは、冒険小説の持つ魅力が、世代をこえて支持されていることが伺えました。また、今後の展示へのご意見もいただきました。以下にいくつかご紹介します。

・冒険小説を世界地図で見られたので、おもしろかった。(女性／50代)
・はじめは、見おぼえのある本を見つけて、なつかしく感じていましたが、順を追って様々な作品を見ていくと、まだまだ子どもに読んでほしいすばらしい冒険小説があることが分かって感激しました。(女性／30代、女性50代)
・ジューヌ・ベルヌ（海底２万里）など読んだことのあるものが展示されており懐かしかった。(男性／60代、男性／50代、女性／20代)
・ふつうよりたのしかった。しっているのがあった。よみたいものも見つかった。（男性／小学生　女性／小学生)
・子どもにはちょっと難しいかもしれない。子どもも楽しめればなお良い。(女性／大学生)
・手にとって見たいものもあった（女性／20代)
・本離れの子どもたちに新しい刺激が与えられるこのような企画をもっと続けてください。(男性／50代)

（註１）イングラムコレクションについては以下を参照：
神宮輝夫「ウィニングトン－イングラムコレクションの魅力」(『国際子ども図書館の窓』3　2003. 3　pp. 16-20) ／神宮輝夫「イングラムコレクションと冒険小説　展示会図録」(『未知の世界へ－児童文学にえがかれた冒険』pp. 14-17　2003. 7）／イングラムコレクション　Ibid. pp. 18-20

（註２）池田宣政コレクションについては以下を参照：
杉山きく子　「アンデルセン「新・お話と物語」ほか３冊－池田宣政（南洋一郎）コレクションから－」(『国際子ども図書館の窓』3　pp. 10-13) ／「池田（南洋一郎）コレクション」(『未知の世界へ－児童文学にえがかれた冒険』展示会図録 pp. 21-23　2003. 7）

国際子ども図書館の児童サービスの現場から

国立国会図書館が児童サービスを始めるということで、浦安市立図書館から実務研修員として当館に派遣され、職員の方と共に業務に携わってきました。当館は、公共図書館とは性格が違い、また、建物も既存のものを使っているため、児童サービスの環境が整っているとはいえませんが、来館する子どもたちに図書館を体験してもらいたい、楽しい本と出会って欲しいと、フロアワーク、おはなし会、見学の案内、おたのしみ会などの行事を行っています。

特にフロアワークとおはなし会は、日常的なサービスとして大切にしています。フロアワークの一つとして、子どものへやのカウンター職員が、子どもに絵本のよみきかせをすることが、だいぶ定着してきました。初めは、子どもに声をかけることに抵抗や照れがある職員もいましたが、最近では、うろうろしたり、本を次々と出したりしている子どもを見つけると、すかさず声をかけています。顔なじみになった子どもから「この本読んで」と声をかけられることもあります。読み終わると、丁寧にお礼を言う子、「次はこれ」とリクエストする子、知らない人に読んでもらって恥ずかしいのか、「もういい」と言う子などさまざまです。職員にとっては、子どもと1対1で接し、反応を見ることができて、よい勉強になっています。昨年度は215人の子どもたちに、フロアでよみきかせをしました。

おはなし会は、毎週土・日曜日に、年齢別に2回に分けて行っています。会を担当すると、子どもたちの反応がストレートに伝わってきて、どんなおはなしや絵本が子どもに向くのか、よくわかります。子どもたちが、笑い、怖がり、悲しそうにする様子を見ると、おはなしや絵本の力をしみじみ感じ、こちらも満たされる思いがします。1月に2、3回、担当にあたるので、皆のおはなしのレパートリーも増えてきました。

当館が全面開館して1年半余がたちますが、寄せられる反響や期待の大きさには驚かされます。国際と名の付く、国立で初の児童書専門図書館なので当然ではありますが、最近の子どもの読書を巡る様々な動きとも無縁ではないでしょう。学校や図書館関係者の見学も多く、子どものへやの蔵書や児童サービスについてよく聞かれます。当館の児童サービスは十分とはいえませんし、児童サービスをどこまでやるか、できるかは今後も課題ですが、子どもはもちろん、子どもの周辺にいる大人や、公共図書館、学校図書館に、少しでもよい影響を与えることができればと思っています。

(島本まり子)

特集　あなたの「思い出の１冊」探します！

－国際子ども図書館のレファレンス・サービス－
ストーリー・レファレンスを中心に

ふと、子供の頃に読んだ本の一場面や一節を思い出すことがありませんか？そして、その本にたまらなく再会したくなることはありませんか？国際子ども図書館にはそんな探し物をする利用者が毎日たくさん訪れます。

本稿では、国際子ども図書館で行っているレファレンス・サービスについて簡単にご紹介した上で、利用者の心の片隅に残る本を、ほんの小さな手がかりからどのように探していくか、その際どんなツールが有効か、いくつかの事例を交えてご紹介してみたいと思います。

♪　国際子ども図書館のレファレンス・サービス

レファレンス・サービスとは、利用者の調べたいことや知りたいことについて、図書館員が調査のお手伝いをするサービスです。(詳しくは、本書「利用案内」47p.参照）このうち文書による問合せは、2003年１月から12月末までの１年間に126件寄せられました。個人からが77件で、全体の約60％を占めています。国立国会図書館全体では「図書館経由」の申し込みが大半を占めるなかで、国際子ども図書館で個人の利用者が突出しているのは、個人からの申込に特に制限を設けていないためと、「初めてできた国立の児童書専門図書館に、今までずっと気になっていたことを尋ねてみよう。」という思い出探しも大きな動機となっていると思われます。

しかし、中にはお近くの公共図書館でもレファレンス・サービスを行っていることをご存知ない方も見受けられます。また、総合学習などの場合、児童書の専門図書館である当館よりも、一般書も数多く所蔵している公共図書館の方が、幅広い資料を使ったより詳しい調査ができ、便利な場合もあります。

国際子ども図書館の最大の「売り」は、豊富な蔵書です。納本制度によって網羅的に収集した過去から現在までの国内刊行児童書（絶版資料なども含め）を実際に手にとって確認することができます。目録やツールを使って資料のおよその特定はできたものの、現物の確認ができない場合など、当館の出番だと言えます。お近くの公共図書館と国際子ども図書館を上手に使いわけてご利用ください。

♪　ストーリー・レファレンスとは？

「昔、子どもの頃に読んだ、こんな内容の本を探している」といった問合せを、私たちはストーリー・レファレンスと呼んでいます。質問者は、書名や著者名が不確かであるか、ほとんど憶えていない、しかし細部は鮮明に憶えている、またはある場面が特に強く心に残っている、といった場合です。それは、胸をうつ感動的な話だったり、非常にこわい話や、不思議な話であることが多いのですが、あくまで個人的な経験や状況のもとで、心に強く訴えた本なので、誰もがよく知っている有

名な本とは限りません。ストーリー・レファレンスが難しいのは、こうした本が多いためです。

♪　まずは、インタビューが大事です

その本を、いつ、どこで、何歳くらいのとき読んだのか、どんなストーリーか、登場人物は、絵の感じは、絵本、物語、それとも雑誌か、一冊の中に幾つも話が入っていたか、全集の１冊か、新しく買ってもらった本か、読んだときすでに古かったか、家にあった本か、学校や図書館の本か、大きさは、表紙の色や模様は、ハードカバーか等々、質問者とその本との関わりをできるだけ探ることが必要です。その一つ一つが回答に至る重要な手がかりとなるからです。図書館のカウンターで質問を受ける場合も、文書で問合せを受ける時も、わかっていることや今まで調べたことをできる限りお聞きし、または書いてもらいます。

♪　そして、調査開始

膨大な資料の中から探している資料を絞り込むにあたって、どんなツールを使っているのか、実際のレファレンス内容の具体例と合わせてご紹介します。

♪　何を使って調べるか

⑴　児童書を多く所蔵している図書館の OPAC で検索

正攻法は目録検索です。正確な書名等がわからなくても、任意のキーワードから検索できることが最大の利点です。質問者の記憶にあるタイトル、あるいは聞き出したストーリーから思いつくキーワードで検索します。主人公が「犬」や「クマ」で固有名詞がない場合は絞り込むことが難しく、主人公が男の子や女の子だけではキーワードにはなりません。また「ワイン」は「ぶどう酒」に、「おばけ」は「ばけもの」などに置き換えるなどの工夫も必要です。一方で、年月を経て記憶が微妙に変わってきて、登場人物の名前が入れ替わったりすることもありますので、ときには利用者の記憶に固執しない柔軟さも必要となります。質問者は、いつ頃どこで読んだかということを憶えていることが多く、これは調査対象資料を絞り込む際に有力な手がかりになります。

<質問①>

20年くらい前に学校図書館で読んだ、王さまが花畑で寝ているシーンのある絵本。アンデルセンの「はだかのおうさま」ではない。

<回答>

『はなののびるおうさま』横田稔　絵と文　福武書店　1982（当館請求記号：Y17-8497）だと思われます。

<検索経過>

児童書総合目録でタイトルを〈オウサマ〉、絵本の分類〈Y17〉、刊行年代を1980年前後に絞り検索。「はだかのおうさま」でないものを選び現物で確認する。

<質問②>

30年くらい前に小学校の図書館で読んだ。小学生の男の子が主人公で、ロケット

に乗って亡くなった妹を探しに行く。亡くなった人の世界では記憶がなくなるが、男の子は博士に会い、薬を手に入れ、最後に妹と対面する。

＜回答＞

『少年オルフェ』米沢幸男作　依光隆絵　講談社　1962（当館請求記号：児913.8-Y771s）だと思われます。

＜検索経過＞

児童書総合目録の検索項目「あらすじ」を、キーワード（妹）（死んだ）で検索。6点ヒット。上記資料のあらすじに「死んだ妹が生きかえるように祈って、ロケットでふしぎな星の世界を旅した小学生の物語」とありました。

検索に用いるキーワードの組み合わせを工夫することによって、探している資料にたどり着くことができた例です。

＜主要児童書所蔵機関・図書館 OPAC＞

国際子ども図書館児童書総合目録

（http://kodomo3.kodomo.go.jp/web/ippan/cgi-bin/fKJN.pl?act=KW）

国立国会図書館、国際子ども図書館の蔵書に加えて、児童書を所蔵する日本国内の主要類縁機関（大阪国際児童文学館、神奈川県立神奈川近代文学館、三康文化研究所附属三康図書館、東京都立多摩図書館、日本近代文学館、梅花女子大学図書館）の所蔵情報を一元的に検索できる目録。1950年以降の『日本図書館協会選定図書総目録』収録児童書の解説情報が、あらすじ情報として検索可能。タイトル、著者、出版者、件名、あらすじ、出版年、分類、賞名、受賞年等から検索が可能。

国立国会図書館蔵書検索（NDL-OPAC）（http://opac.ndl.go.jp/index.html）

国際子ども図書館および国立国会図書館の蔵書検索が可能。上記児童書総合目録との相違点は、あらすじ、分類、件名からの検索はできないが、拡張検索にすれば、外国児童書については出版国・言語からの検索が可能。

東京都立多摩図書館（東京都立図書館 OPAC）

（http://catalog.library.metro.tokyo.jp/imain2_ja.html）

タイトル、巻次、著者名、出版者、内容、出版年、件名、分類、資料形態等から検索可能。都立多摩図書館の児童書のデータは、全集・合集等に収載された短編や昔話の内容細目について、作品名・著者名を網羅的に採録しているため、検索に大変有効である。絵（本）雑誌についても、図書と同様に各巻のタイトル、著者等からの検索が可能。

大阪国際児童文学館 WebOPAC（http://opac.iiclo.or.jp/）

タイトル、著者、出版者、出版年月日、内容タイトル、内容著者、件名／分類、叢書名、形態、言語、出版国等から検索可能。絵（本）雑誌については、巻号一覧、内容検索が可能。

梅花女子大学・短期大学図書館 OPAC、児童文学雑誌記事索引 DB
(http://www.baika.ac.jp/~lib/frame-opac.html)

タイトル、編著者、件名、目次、抄録から検索可能。絵（本）雑誌『こどものとも』、『かがくのとも』、『月刊たくさんのふしぎ』各号のタイトルからの検索が可能。

(2) インターネット検索エンジン等で手がかりを得る

OPAC 検索でヒットしなかった場合でも、思いがけなく手がかりを得ることがあります。情報を鵜呑みにすることはできませんが、そして勿論最終的には現物での確認が必要となりますが、資料にたどり着くきっかけを得られることが少なくありません。Google（http://www.google.co.jp/）などが有効です。また、同好団体や好事家が立ち上げているサイトなども多数あり、やはり手がかりを得られることがあります。

<質問③>

15～18年前、保育園時代に読んだ、木にお菓子がなったり、水道からジュースが出てきたりする絵本を探している。

<回答>

『なまけもののくにたんけん』ハインリッヒ・マリア・デンネボルグさく　ホルスト・レムケえ　かしわぎみつやく　佑学社　1978（当館請求記号：Y17-5702）だと思われます。

<検索経過>

〈絵本〉〈ジュース〉〈蛇口〉というキーワードで Google を検索。(※現在はヒットしません)。この質問は、さまざまな OPAC、解題書誌、雑誌『こどもの本棚』（日本子どもの本研究会編）などで見つけられず、Google 検索によりこの資料を紹介しているサイトにたどり着くことができた例です。なお、上記の例もそうですが、インターネット上の情報は日々更新されるため、質問者にサイトを紹介する際には最終アクセス年月日を付記することにしています。

(3) 児童書を多く所蔵する機関の蔵書目録（冊子体）を調べる

出版年代が比較的限定され、絵本か物語かが明確な場合、一覧性のある目録やブックリストに当たることも有効です。一般に、解題つきのブックリストは、資料が選定されていますので、網羅的に調べるには蔵書目録あるいは全国書誌などを用いることになります。この場合は、書誌事項のみで解題は付されていません。一覧できるのが冊子体目録の強みです。

<主要な児童書所蔵機関・図書館の冊子体目録>

◎国立国会図書館所蔵児童図書目録　国立国会図書館整理部編　国立国会図書館　1971-1996

国立国会図書館が所蔵する明治以降に出版された児童図書、絵本、漫画の蔵書目録。明治から1996年まで７分冊で刊行。ただし、明治期に刊行された児童書は、

帝国図書館において乙部として整理されたものに限られ、甲部扱いのものについては『国立国会図書館蔵書目録 明治期』を参照する必要がある。

◎**東京都立日比谷図書館児童図書目録** 1991年10月15日現在

同館が1991年10月までに受入れ整理した児童図書を、研究書、絵本、漫画、一般児童書に大別して収録。

◎**財団法人大阪国際児童文学館蔵書・情報目録 1868-1945** 大阪国際児童文学館編 増補改訂版 1988

同館が1987年12月現在で調査できた、1868年1月から1945年12月までに日本で出版された児童図書及びそれに関連する図書約8,162タイトルを出版（初版）年月日順に配列したもの。同館で所蔵している資料は書名をゴチックで示す。

⑷ 販売書誌

「ある年に出版された本の総目録」を活用できるケースもあります。

出版年鑑 1951年版-2001年版 出版ニュース社編刊 1951-2001 以後、**出版年鑑＋日本書籍総目録**に改題。

なお、散逸が著しい戦前期のものを調べるための出版年鑑には、以下のようなものがあります。

出版年鑑 1926-1928年版 国際思潮研究会 3冊
出版年鑑 昭和4-15年版 東京書籍商組合 12冊 1929-1940
出版年鑑 昭和5-16年版 東京堂 12冊 1930-1941
書籍年鑑 昭和17年版 協同出版社 1942
出版年鑑 昭和18年版 協同出版社 1943
日本出版年鑑 昭和19-21年版、昭和22-23年版 日本出版協同 1947-1948

日本書籍総目録 1977/1978-2001 日本書籍出版協会編刊

当該年に入手可能な資料を収録。出版年が数年にわたる場合に使うことができる。以後、出版年鑑に合併し、**出版年鑑＋日本書籍総目録**に改題。

日本出版百年史年表 日本書籍出版協会編刊 1968

児童書も少し掲載されている。

⑸ 解題書誌（主要なもののみ）

解題のほか、表紙の写真が付されているものが多く、解題内容や表紙のイメージから手がかりを得るのに便利。

選定図書総目録 1950- 日本図書館協会 1951-

選定図書目録には、上記のほか、大阪市立中央図書館の『こどものほんだな』他各公共図書館等が定期的あるいは単発で刊行しているものも多い。

学校図書館基本図書目録 1952年版- 全国学校図書館協議会基本図書目録編集委員会編 全国学校図書館協議会 1952-

図書館でそろえたいこどものほん 1えほん 2児童文学 3ノンフィクション 日本図書館協会 1990-1997 3冊

どの本よもうかな？ 子どものための1,300冊の本　日本子どもの本研究会編　草土文化　1977

続どの本よもうかな？ 1,900冊　日本子どもの本研究会絵本研究部　国土社　1998

どの本よもうかな？ 1・2年生、3・4年生、5・6年生　日本子どもの本研究会国土社　2000　3冊

どの本よもうかな？ 中学生版　日本編、海外編　日本子どもの本研究会　金の星社　2003

えほん 子どものための500冊　同追補　日本子どもの本研究会絵本研究部　一声社　1989、1995

新版　私たちの選んだ子どもの本　東京子ども図書館　1978

えほんのもくろく 児童図書館員と文庫のおかあさんがえらんだ　児童図書館研究会　日本図書館協会　1974

かんこのミニミニ子どもの本案内　赤木かん子　リブリオ出版　1997

絵本・子どもの本総解説　第5版　赤木かん子　自由国民社　2002

こんなとき子どもにこの本を　下村昇　自由国民社　1995

児童文学の魅力　いま読む100冊－日本編、海外編　日本児童文学者協会　文渓堂1995

児童図書総目録　小学校用、中学校用　1987年版-　日本児童図書出版協会　1987-

優良児童図書総合目録（1958-1986）の改題。日本児童図書出版協会会員出版社のほか、会員外児童書出版社の出版物も収録。（計約90社）。比較的新刊で入手可能なもの。

こどもの本　1巻1号（1975.10）－　日本児童図書出版協会

日本児童図書出版協会会員出版社の出版物は網羅的に掲載されている。

⑹ 件名書誌

戦争や原爆、障害者・障害児を描いた本のブックリストなどが刊行されているので、そうした問合せには利用出来る。近年の出版物であれば、『本選び術』や TR-CD ジュニアの件名を利用することもできる。

本選び術　よみたい本が必ず探せる　小学校版、中学校版　図書館資料研究会監修　リブリオ出版　1995

物語と記録文学をテーマ(なみだと笑いとこわい話、昔話や古典文学…)とキーワードで検索。収録作品の一覧はない。1997年に増補改訂版が出ているが、これには童話、物語、小説は含まれない。

絵本の住所録　テーマ別絵本リスト1993年、1998年新版　舟橋斉編著　法政出版

掲載の年代が限られることで、網羅性に欠けるきらいもあるが、類書がないので便利。絵本以外も含む。

主人公別リスト　1．妖精・魔法使い・おばけなど　2．動物：十二支を中心
にして　児童図書館研究会　1980、1983

⑺　**絵（本）雑誌**

『こどものとも』（福音館書店　1956-）などの月刊絵（本）雑誌の掲載作品は、一般には普通の絵本として記憶されがちです。しかし、図書館では通常、雑誌として整理していますので、タイトルからの検索ができない場合が多いのですが、上記に紹介したように、東京都立図書館、大阪国際児童文学館、梅花女子大学図書館などでは、各号のデータ入力や図書扱いによる整理を行うことで検索の便を図っています。（国際子ども図書館でも今後データ整備を予定しています。）

なお、絵（本）雑誌の各号のタイトルなどが参照できる個人サイト「児童書のページ」（http://www.fetish-jp.org/ascat/jidou/jidou.htm）がありますので、参考までにご紹介しておきます。

♪　ツールに頼らない調査もあります

以上のべてきたようなツールを用いた調査で手がかりが得られない場合、一見合理的とは思えない方法の出番となります。レファレンス・ライブラリアンにとって大切な資質や素養が求められるところであり、腕のみせどころでもあります。

⑴　**書架に当たる**

もちろん全ての蔵書を調べることは不可能ですが、年代順に排架している国際子ども図書館の書庫は、一定の年代の範囲内にある資料をブラウジングするには便利です。また、児童雑誌掲載作品の場合だと、これが唯一の収録作品の確認方法となり、タイトルごとに該当年代の各号を一冊一冊あたっていくことになります。

＜質問④＞

1975～1980年くらいに流通していた20ページくらいの絵本で、ドイツ、オーストリアまたは北欧の作家のもの。60～70年代風の色使いで鳥や木が登場。

＜回答＞

お探しの年代の当館所蔵の翻訳絵本を確認しましたが、全ての条件を満たす資料は見つかりませんでした。お探しの絵の感じに近い絵本に、『カングル・ワングルのぼうし』エドワード・リアぶん　ヘレン・オクセンバリーえ　にいくらとしかずやく　ほるぷ出版　1976（当館請求記号：Y17-5253）がありました。

当該年代の国立国会図書館所蔵児童図書目録を通覧し、タイトルで目星をつけるとともに、質問者が描いた絵に近い絵の絵本をひたすら書架上で探し、上記の本に行き着くことができた例です。一種の力技で、非常に根気のいる作業ですが、結果如何にかかわらず、利用者にもっとも納得していただける方法かもしれません。

⑵　**人に聞く**

手がかりが無かったものの、職員の記憶に頼って回答に至ることができたケースも少なくありません。

<質問⑤>

昔読んだ絵本で、タンスの中を開けてはいけないと言われていたのに開けると、そこには田んぼを耕す人々がいたり、カカシがあったり・・・。たんすは、たぶん4段で四季になっていたような気がする。

<回答>

『日本の民話』(オールカラー版　世界の童話８) 西山敏夫等文　羽石光志等絵　小学館　1967 (当館請求記号：Y7-554) の中に収録されている「うぐいすひめ」だと思われます。

質問者と同世代の職員が、子どもの頃に同じ本を読んだという記憶により回答できた例です。表紙の色が白っぽかったという情報が資料を特定する鍵となりました。まさしく、職員のこれまでの読書経験がものをいった例です。やはり児童書の専門図書館の職員たるもの、よりたくさんの児童書を読み、資料に詳しくなるのは必須要件です。

(3) 「発想の転換」をしてみる

<質問⑥>

サンディというような名前の女の子が隠れ家を見つけ、毎日のようにそこに出かける話を探している。20～30年前に小学校の学級文庫にあった。外国の作家の作品だったように思う。

<回答>

『マンディ』　ジュリー・アンドリュース著　岩谷時子訳　ティービーエス・ブリタニカ　1979.10 (当館請求記号：Y7-7677) でないかと思われます。孤児院に住む10歳の少女マンディが、孤児院の裏に探検に出かけ、小さな古い家を見つけ、毎日のようにその家に通い、やがて病気になったマンディは、家の持ち主であるフィッツジェラルド氏に手厚く看病され、養女となって幸せに暮らした、というあらすじです。

どんなに印象深かった本でも、その後の読書経験によって本の大きさや色のイメージなどの記憶が塗り替えられてしまうことがしばしばあります。上記は、決め手となりそうな主人公の名前が違っていた例ですが、思いつく外国人の女の子の名前で検索し直し、現物を確認することにより見つかったものです。このような一瞬のひらめきと、それを可能にする発想の柔軟さが大切となります。

以上、国際子ども図書館に寄せられたストーリー・レファレンスについて、いくつかの事例とその解決方法について、ツールの紹介を交えてご紹介してきました。

さあ、あなたも国際子ども図書館で、子どものころの思い出の１冊を、もう一度探してみませんか？

(資料情報課)

忘れられないレファレンス

杉山きく子

私は、長年児童サービスに携わり、多くの利用者の「子どもの頃に読んだ本」を探すお手伝いをしてきた。中学生からお年寄りまで、探し求める本は、読み継がれてきた古典的な作品から、今はすっかり忘れ去られたものまで、様々である。運良く探し出すことができた本を読んでみると、子どもが強い印象を持ったことが納得できる。街角で買ったシャボン玉を吹くと、ネズミやゾウのシャボン玉が出てくる話（註1）、魔女が月見草を材料に魔法の薬を作る話（註2）、テストの答えを教えてくれる消しゴム（註3）など、子どもの夢を叶えてくれる場面を、利用者はよく覚えていて、生き生きと語ってくれる。言葉のリズムが良い詩やお話も心に深く刻まれるようだ。何十年の時を超えて、一言一句も間違えずに唱えてくれる人もいる。気味の悪い怖い話も人気がある。男の子がおばあさんにさらわれる『鼻の小人』(ヴィルヘルム・ハウフ著）などは、幾度聞かれたかわからない。『幸福な王子』(オスカー・ワイルド著）や「堤防の穴をふさいだオランダの少年」のような気高い話も探す人が多くいて、子どものまじめな正義感に改めて驚く。少数であるが、『小さな魔法使い』（註4）のような深い精神性を持つ本を探す人もいる。

どの利用者も本が見つかるととても喜んでくださる。中には「これです」と答えたきり、涙で何も言えない人もいる。そんなとき、子ども時代にそれを読んでいた姿を見たくなる。そして大人になって再会し、どんな風に感じたかを聞きたくなる。誰もが経験することだが､小さい頃の記憶ではたくさんのことが描いてあったのに、実際は驚くほど短かったり、素晴らしい絵だと信じていたのに、色あせて見えることがある。子ども時代に出会い、忘れられずにいた本は、その人の心の中でどんな位置を占めてきたのか､どんなふうに変わってきたのか知りたいと長年思ってきた。

一昨年、国際子ども図書館勤務中に偶然にも、この疑問に、一つの答えを頂いた。70歳の男性から、『日本童話集』（註5）に入っている1枚の絵ー老人と動物が囲炉裏を囲んでいる絵を探しているというレファレンスを受けた。該当の本を探すと、浜田広介の「黒い樵と白い樵」の挿絵（図1）のようである。画家は川上四郎。但しこちらの絵は若者と動物である。さっそくレファレンスの回答に、絵の複写を添付して質問者に送ったところ、丁寧な礼状が届いた。

探し求めていた「まぼろしの挿絵」と再会できたことへのお礼に添えて「この、心和むような「幸せ」を絵にするとこうなるとでも言っておりますような絵を、私は子どもの頃見まして以後、うろ覚えのままに友人知己への便りの端などに書き添えて参りました」と綴って、直筆の絵（図2）を同封してくださった。川上四郎の絵とこの絵を比べると、驚異と賛嘆の念を覚えずにはいられない。若者が老人に変わっている。3匹だけだった動物が、サル、ウサギ、トリ、ネコ、イヌと5匹も増えている。道具も樵が使う鉄砲やカンジキから、蓑、笠、鍬、長靴、ランプと農具

に変わっている。家の外では雪が降り、キツネの足跡が家に向かって残っている。

お手紙によると、年上の従兄弟から譲り受けた全76巻の『日本児童文庫』(註5)を10歳のときに手放した。この従兄弟は、ビルマ戦で戦死したため「さまざまな意味で曰く付き」の本であったと言う。戦争を挟んだ60年の歳月のなかで、10歳のときに見た挿絵の「幸せ」に慰められ、やがて周りの人たちにそれを手渡していったのだろう。本に納められた絵は不変だが、人の心に宿った絵は歳月と共に変化していく。絵を見ていると、この老人こそが、利用者自身であり、「黒い樵と白い樵」とは別の、この人自身の物語を語っているような錯覚を覚える。

絵という形で、誰にでも見ることのできるこのようなケースは稀である。しかし、目には見えなくても、同じようなことが、子どもの心にも起こっている。子どもは心に叶った本に出会ったとき、その子の必要に応じて、あるいは自分の生活に引きつけて、物語をもっと豊かに膨らませ、楽しむものである。時には平凡な詩が神の歌声に、陳腐なストーリーがわくわくする大冒険になることさえある。書き留められた言葉や絵は変わらなくても、その子の中で、歳月と共に育ち、その人の心のよりどころともなっていく。そんな本との出会いを持てた子どもは幸せである。

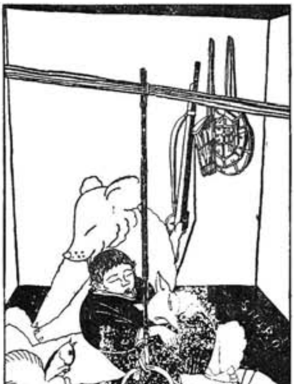


図1　川上四郎画

図2　高槻貞夫画

(すぎやま きくこ　東京都立多摩図書館)

註1　『まほうのしゃぼんだま』 マーサー・メイヤー作　福音館書店　1979

註2　『ドリーと魔法のくすり』 P.クームス作・絵　掛川恭子訳　あかね書房　1980

註3　「ひろことけしゴム」 神沢利子作 『ジャンボ日本の童話2年生』所収　金の星社　1972

註4　ジャニーヌ・パピイ作　大島辰雄訳　岩波書店　1963

註5　『日本童話集　上中下』は『日本児童文庫』の第15～17巻　アルス　1927

レファレンス事例の公表に当たっては、質問者の高槻貞夫氏の許可を得ています。

世界の児童書－蔵書紹介－

国際子ども図書館ロシア語児童書コレクション
－田中かな子旧蔵資料を中心に

松谷さやか

◎田中コレクションの意義

2000年、ロシア児童文学の翻訳家、故田中かな子さんのおよそ3,700冊の蔵書が国際子ども図書館に収集された。これまでのロシア関係の資料は充実しているとは言えなかったので、この田中さんの旧蔵資料（以下、コレクション[註]）の収集は画期的なことである。

田中かな子氏

田中かな子さんは、1931年生まれ。中華人民共和国東北師範大学ロシア文学科を卒業後、旅行添乗員としてロシア各地を旅行するかたわら、ロシア児童文学の翻訳・研究に携わった。集められた膨大なロシアの児童書は、250回をこえる旅行のたびに持ち帰ったものである。ロシアの大地を駆けめぐる仕事と執筆という二本立ての多忙を極める日々が続いていたが、1993年４月、突然病いに倒れ、長い闘病生活の後、1999年８月に帰らぬ人となった。旅行の仕事から引退して、書斎での仕事に専念しようという矢先に襲った不幸だった。

さて、ロシアの子どもの本の出版の歴史は、次のように大きく三つの時代に分けることができる。①帝政時代、②革命後のソ連時代、③ソ連崩壊から現代にいたるまで。コレクションの児童書はほとんどすべて②のソ連時代に出版されたものである。1991年にソ連は崩壊し、この時代の児童書を手に入れることは不可能に近いので、このコレクションが貴重なものであることは言うまでもない（ペレストロイカ以後、市場経済になり、雨後の筍の如く民営の出版社ができて、ソ連時代の作品を“古典”として出版してはいるが)。

田中さんが残した翻訳の足跡をたどると、昔話の『ガラスめだまときんのつののヤギ』や、パウストフスキーの『ユーカリの大地』などがあり、読者対象は幼児からヤングアダルトまで広範囲にわたっている。したがって仕事に密接に結びついて集められた田中さんの蔵書を眺めると、ソ連時代の児童文学の豊かな遺産としての全体像が浮かび上がってくる。

◎革命前のロシアおよびソ連時代の作品

帝政時代には識字率が非常に低く、本は貴族や恵まれた一部の階級の子弟のものだった。一般の子どもたちの手に本が届いたのは革命後のことである。

1917年の社会主義革命後、新しい国家が誕生すると、ゴーリキーを指導者に次代を担う子どもたちのための新しい児童文学の創造が始まる。そして1933年には、世界初の国立の児童文学出版所「ジェーツカヤ　リテラトゥーラ」が設立された。

コレクションの中の、多くの単行本がこの出版所から刊行されたものである。

やがて国を背負って立つ子どもたちが、“人間らしい人間”に育つことを念じたゴーリキーは、グローバルな視点から広いジャンルの作品が教育に有効であると考えた。そして質の高いロシア文学、世界文学の古典作品を読ませることも提唱して、出版計画を立てた。コレクションには主にソ連時代に出版された次のような本が含まれている（冊数には同じ書名で出版年、出版所が異なるものや作品集を含む）。

・19世紀の作家の作品

Конек-горбунок
1974.『せむしの子馬』

クルィロフ『寓話集』など5冊。プーシキン『漁師と魚の話』など59冊。エルショーフ『せむしの子馬』、この作品は田中さんが翻訳を手がけたこともあり、同じ書名のもので、出版年、出版所が異なる本が14冊集められている。オドーエフスキー『たばこ入れの町』など8冊。ゴーゴリ『外套』など5冊。アクサーコフ『真紅の花』など13冊。Л.トルストイ『アーズブカ』（これはトルストイが農奴の子どもたちのために開校した学校の教科書だった）、この他にトルストイのものが45冊。ツルゲーネフ『初恋』など8冊。A.K.トルストイ『白銀公爵』など5冊。ネクラーソフ『トプトゥィギン将軍』など12冊。レスコフ『左利き』など8冊。コロレンコ『地下室の子ども達・盲目の音楽家』など5冊。チェーホフ『ワーニカ』など14冊。マーミン＝シビリャーク『アリョーヌシカのお話集』など23冊。クプリーン『中・短編集』など12冊。

・20世紀の児童文学作家・詩人の作品

ゴーリキーは、新しい児童文学の創造に並々ならぬ情熱を注ぎ、才能ある作家に執筆を呼びかけた。これに応じたのが、マルシャーク、チュコフスキーらで、期待通り次々に素晴らしい作品が誕生し、ソ連児童文学の大きな山脈が築かれていった。コレクションには主に次の作家の作品が含まれている。

ゴーリキー『どん底』など28冊。マルシャーク『十二の月』（邦題『森は生きている』）など93冊。チュコフスキー『ぬすまれたお日さま』、両親、保育関係者の必読書といわれる『二歳から五歳まで』など38冊。マヤコフスキー『何になるか？』など9冊。パンテレーエフ『時計』（邦題『金時計』）など5冊。ビアンキ『森のおうち』など51冊。A.H.トルストイ『ブラチーノの冒険』、この作家は『おおきなかぶ』の再話者でもある。ジトコフ『ぼくが見たもの』など15冊。バジョーフ『孔雀石の小箱』など25冊。ガイダール『チムールと仲間達』（邦題『チムール少年隊』）など20冊。プリーシヴィン『太陽の倉』など24冊。ミハルコフ『スチョーパおじさん』など31冊。バルトーの詩の本16冊。コーノノフ『レーニン物語』など13冊。パウストフスキー『鉄の指輪』など28冊。ヴォロンコーワ『魔法の岸辺』など9冊。

オセーエワ『ジンカ』など14冊。ステーエフ『お話と絵』など6冊。ノーソフ『学校と家庭でのヴィーチャ・マレーエフ』(邦題『ビーチャと学校友だち』)など30冊。スネギリョフ『子どものための短編集』など30冊。トクマコーワ『夏のどしゃぶり』など9冊。ヴァスクレセンスカヤ『希望』など15冊。ドラグンスキー『幼い頃の友だち』など13冊。プロコフィエワ『黄色いかばんの冒険』など15冊。スラトコフ『歌うバルハン』など7冊。ベレストフ『詩集　最初の落ち葉』など10冊。かつて、ソ連を構成していた15の共和国のうちのエストニアのエノ・ラウドやモルドヴァのワンゲリ、グルジアのイオセリアーニなどロシア以外の共和国の作家の作品も入っている。

主な作家の作品を取り上げたが、このなかで社会主義的傾向のものは今後どのように評価されるのだろうか、大いに関心のあるところだ。参考書・研究書として、ゴーリキーの『児童文学について』、チュコフスキーの『チュコッカラ』、マルシャークについての回想録『私は思った、感じた、生きた』、『マルシャークの生涯と著作』、マカレンコの『児童文学と児童読み物について』、文学史の『ソ連児童文学』、論文集『ソ連児童文学』『児童文学について』などが含まれる。

◎絵本

絵本も蔵書では大きな位置を占める。日本でも人気がある『てぶくろ』『三びきのくま』はソ連時代の傑作である。第一級の画家によるソ連時代の絵本と現在出版されている、色も描写もどぎついと思われる絵本を比較すると大変興味深い。

・1920年代の絵本の復刻版

МОРОЖЕНОЕ
1975（復刻版）
『アイスクリーム』

革命直後、ソ連では読み書きのできない子どもたちの啓蒙にアヴァンギャルドの画家や詩人、その他多くの芸術家たちがエネルギッシュな活躍をして見事な絵本を生み出し、「絵本の革命」として世界の注目を浴びた。20年代には画家レーベジェフとマルシャークのコンビが次々に素晴らしい絵本を誕生させた。初版はなかなかお目にかかれないが、70年代からモスクワの「ソビエト美術家出版所」とレニングラードの「ロシア共和国美術家出版所」が復刻版の出版を始めた。コレクションには、このコンビによる『サーカス』『きのうときょう』『かんながかんなを作った話』『アイスクリーム』やレーベジェフの『子どものための10冊の本』などの復刻版が揃っている。その他の画家の復刻版もある。

・絵本を彩った多彩な画家

イコンや民俗版画、そしてアールヌーボーの影響を受け、装飾的な絵で昔話を彩ったビリービンの作品、『うるわしのワシリーサ』『金のにわとり』など。『三びきのくま』で知られ、民芸玩具のような温かみのある雰囲気でわらべ歌の世界を描いたワスネツォフの絵本。動物に衣装を着せて個性を表現した、『てぶくろ』で人気のラチョフの『おだんごぱん』など。動物や鳥をリアルに描写したチャルーシン父子の動物絵本。大胆な構図と鮮やかな色彩で奔放に描き、1976年アンデルセン賞を受賞

したマーヴリナの『いりえのほとり』、作家コヴァリとのコンビによる『鶴』など。その他にコナシェーヴィチ、パホーモフ、ブルーニ、ローシン、トクマコフ、ミトゥーリチの絵本。これらはほんの一部でソ連時代の才能豊かな画家たちの層は厚い。

研究書として、ガンキナ『子どもの本・昨日と今日』『現代の児童書の画家』や、『タチヤーナ・マーヴリナ』『画家ワスネツォフ』『チャルーシンの世界』などがある。

◎フォークロア（昔話、伝説、諺、なぞなぞなどの民間伝承作品）

前述のようにソ連は15の共和国から成立し、100以上の民族が住んでいた。民族はそれぞれに豊かなフォークロアを伝えており、とくに昔話の採集はソ連時代盛んに行われ、多くの作品が出版された。ゴーリキーも民間伝承の作品の価値を認め、子ども達の成長に大きな役割を果たすと主張した。田中さんは、昔話の翻訳には特に意欲的で、コレクションの半分を占めると思えるほど、おびただしい数のフォークロア関係の本を蒐集している。

・昔話の絵本

『かぶ』『てぶくろ』『ゆきむすめ』『やかた』『三びきのくま』など、ロシアの極めつきの昔話の絵本で、おなじ話だが画家や出版所、出版年の異なるものが何冊も収集されており、ソ連時代の優れた画家たちの多彩な活躍が偲ばれる。

・昔話集など

グリムにならって編纂され、ロシア昔話の百科事典といわれるアファナーシエフの『ロシア昔話集』をはじめ、『ロシアの昔話集』というタイトルだけでも20冊以上、それにわらべ歌集、諺集、なぞなぞ集、ブイリーナ（口承英雄叙事詩）など、フォークロアの多彩なジャンルの本が見られる。

・諸民族の昔話

250回以上の旅で集められたさまざまな共和国の民族の昔話の本には、圧倒される。『ソ連諸民族の昔話』をはじめ、シベリヤ、北方民族、ブリャート、アムール、コミ、チュヴァシ、エヴェンキ、ヤクート、モンゴル、キルギス、ウズベク、クルド、トゥヴァ、バルト三国、モルドヴァ、タタール、グルジア、ダゲスタンなどの諸民族の昔話集。ソ連は昔話の宝庫を抱えていたことがわかる。

研究書も多い。田中さんが直接教えを受けたフォークロアの権威、アニーキンの『ロシア昔話』や、プロップの『フォークロアと現実』をはじめ、口承文学の伝統や諸民族の昔話の特色、語り手や登場人物についての解説書がある。

3,700冊というコレクションを前にすると、本格的に翻訳・研究に専念しようとした田中さんの意気込みが感じられ、早すぎた死が惜しまれる。国際子ども図書館はこれらをベースにして今後、絵本の初版本や作家の作品集、全集などを随時に収集して資料の充実を図り、そして、何よりも多くの方に利用してほしいと思う。

（まつや さやか　ロシア児童文学者）

註：これらの資料は、コレクションとして一括ではなく、個々の資料ごとに１点ずつ整理されています。閲覧を希望される場合は、個別の資料ごとに検索のうえ、ご請求ください。なお、絵本の一部は第２資料室に開架されています。（国際子ども図書館）

学校図書館セット貸出しの開始から 1年が経過して（報告）

国際子ども図書館（以下、当館）では、子どもの読書活動の推進において重要な役割を期待されている学校図書館に対する支援を目的として、平成14年11月から「学校図書館セット貸出し」を行っています。当館が児童書に関する図書館奉仕を国際的な連携の下に行うことをその設立の趣旨としていることに鑑み、子どもたちが本を通して諸外国の歴史・文化等に関心を深めることができるよう、国や地域ごとに設定したテーマに応じて、当館で選んだ児童書等約40～50冊からなるセットを1ヵ月間学校図書館でご利用いただくものです。

本稿では、サービス開始からこれまでの経過を報告するとともに、学校からお寄せいただいたアンケートの回答のあらましを紹介します。なお、アンケートは、平成14年11月から15年11月までに韓国セットと北欧セットをご利用いただいた学校115校のうち、102校から寄せられたものです。

・利用した学校（115校）の内訳

(a) 校種別内訳

小学校67校、中学校33校、高等学校9校
私立中学・高校一貫校3校、養護学校3校

(b) 学校所在地別内訳

北海道6校、東北7校、北陸4校、関東26校、中部17校
近畿34校、中国9校、四国2校、九州9校、沖縄県1校

(c) 利用セット別内訳

韓国セット88校、北欧セット27校

1．サービス開始からの経過

(1) 韓国セットの貸出開始

サービスの実施にあたり、まず、申込み手続きや貸出期間等を規定した「学校図書館等児童書貸出規則」（平成14年国立国会図書館規則第11号）が、平成14年10月15日に施行されました。それと同時にこのサービスの開始を全国の学校図書館にお知らせするため、「学校図書館セット貸出しの開始及び関係機関への周知方について（依頼）」と題する文書を、都道府県・政令指定都市教育委員会等関係諸機関にお送りし、管下の学校に対する周知をお願いしました。

平成14年は5月に日韓共催でサッカーのワールドカップが開催されましたが、これを契機に韓国に対する関心が近年にも増して高まっていたことから、サービスを

開始するにあたって「韓国セット」(小学校高学年向きと中学校向きの２種類）を構築し、貸出すことになりました。この韓国セットは、日本語で書かれた韓国で広く読み継がれている昔話の絵本や読み物、韓国に関する文化や歴史等を紹介する知識の本とともに、韓国で刊行されたハングルの絵本10冊程度を含めてセットを構成しています。子どもにとってハングルは見慣れない文字で、理解できる子どもは少ないかもしれませんが、韓国の子どもたちがどのような本を読んでいるか、一般の公共図書館ではあまり所蔵していないと思われるこれらの本を通して、感じてほしいとの思いからセットに含めております。

(2) 申込みへの対応

依頼文書の発送と同時に申込み受付を始め、文書が教育委員会を通じて徐々に学校図書館に届くにつれて申込みの電話を大変多くいただきました。サービス開始当初は、学校図書館個々のご希望の期間に貸出すことにしていました。そのため、学校個々に異なる利用希望の期間を当館で調整し、数に限りのあるセットを無駄なく効率的に回転させることで、多くの学校に利用できるようにする必要性から、貸出規則で規定している申込書の提出の前に、電話による予約をお願いしていました。多く学校図書館がすぐの利用を希望され、それが無理なら、できる限り早い時期に利用したいというものでした。そのため、11月が予約で埋まると12月に、12月が埋まると１月に、というように順次予約を受け付けたため、受付開始からまだ間もない11月初旬の時点で、平成15年７月までの貸出先が内定してしまうことになりました。学校図書館に案内の文書が届く時期が地域により異なるため、案内を見てすぐ申し込んでいただいたにもかかわらず、その時点で貸出先がすでに決まっていて、お断りせざるを得なくなってしまい、大変なご迷惑をおかけしました。

(3) 予約申込み方法の変更

申込みの前に予約受付状況を確認したいが、当館に問い合わせない限り、どの時期に利用できるのかが分からない、あるいは、いつ申し込めばよいのか分かりにくいといったご意見が寄せられたことを踏まえ、15年度貸出し分のうち、６月から新たに貸出しを始めることにしていた「北欧セット」の予約申込みから、学期ごとに設定した受付期間内に必要事項を記入した予約申込票を FAX で当館にお送りいただく方法に変更しました。また、貸出期間も各学期に各々１ヵ月の期間を予め当館で２～３設定し、この中から最も利用したい期間を学校図書館に一つ選択してもらうことにしました。一つの貸出期間で用意しているセット数を越えて申込みがあった場合に限って、抽選で貸出先を決めさせていただくことになりました。

(4) 北欧セット・世界を知るセットの新設

他の国々のセットも利用したいというご要望に応えるため、15年度から新たに「北

欧セット」（小学校高学年向きと中学校向きの２種類）と「世界を知るセット」（小学校低学年向きのみ）の貸出しを開始することになりました。15年６月から貸出しを始めた北欧セットは、世界中の子どもたちに時代を問わず、長く親しまれているトーベ・ヤンソンやアストリッド・リンドグレンの著作を始めとする北欧諸国の優れた児童文学作品を中心に、北欧の文化や歴史等を紹介する資料や北欧諸国の言葉で書かれた絵本によりセットを構成しています。また、16年１月から貸出しを始めた世界を知るセットは、世界各地の昔話や創作絵本の中から国や地域、時代を問わず、子どもたちに広く読み継がれている作品で構成しており、学校での絵本の読み聞かせにもご利用いただけるような小学校低学年を主な対象としたセットです。

２．アンケートから

学校図書館からご意見・ご要望を伺うため、サービス開始時当初からアンケートへのご協力をお願いしています。このアンケートではサービス全体について概ね高い評価をいただく一方で、セットの資料構成の面、あるいは、セットの種類・セット数の充実、１カ月という貸出期間、返却時に学校図書館にご負担いただいている送料についてなど、個々の点ではご意見・ご要望を数多くいただきました。

＜設問１＞学校図書館セット貸出しを何でお知りになりましたか。

韓国セット

　教育委員会を通じた利用案内62、当館ホームページ２、
　当館見学時の職員の説明２、「学校図書館」誌２、新聞等での紹介記事３、
　その他２

北欧セット

　教育委員会を通じた利用案内19、当館ホームページ１、
　当館見学時の職員の説明１、「学校図書館」誌１、新聞等での紹介記事０、
　その他１

＜設問２＞セットについて、該当するものに○をつけてください。

(1)　冊数は（多い・ちょうど良い・少ない）

　韓国セット　多い０、ちょうど良い75、少ない５
　北欧セット　多い０、ちょうど良い22、少ない１

(2)　内容は（良い、普通、悪い）

　韓国セット　良い57、普通18、悪い１
　北欧セット　良い16、普通７、悪い０

(3)　貸出期間は（長い、ちょうど良い、短い）

　韓国セット　長い０、ちょうど良い47、短い30

北欧セット　長い1、ちょうど良い14、短い8

(4) どのようにご利用になられましたか。(自由閲覧で、授業で)

韓国セット　図書館での自由閲覧で54、授業で42

北欧セット　図書館での自由閲覧で21、授業で11

<設問3>今後どこの国、または地域のセットがあると良いと思いますか。

この設問では選択肢を設けず、自由に国や地域名を挙げていただきました。回答が多かった地域としてはアジアが多く、東南アジア、東アジアといった地域や、国別では中国のセットを希望する回答が最も多く寄せられ、アジア以外ではアメリカ合衆国という回答が、西欧各国と並んで多く寄せられました。

<設問4>セット内で不足している、またはあったら良い分野がありましたらお書きください。

設問2でセットの内容の面で良いもしくは普通という評価でしたが、この設問でさらに詳しく尋ねました。主に利用した児童生徒の学年によって、あるいは、セットを授業の一環で利用したのか、図書館内で自由に手にとってもらうようにしていたかによって、回答も異なる傾向にあるように思われます。小学校低学年の子どもたちも利用したので、絵本の冊数がもっと多いほうが良かったというご意見がある反面、小学校高学年の子どもたちが調べ学習で使用したので絵本や読み物より児童向けの歴史や文化に関する知識の本がもっと多く入っていると良かったというご意見、さらには中学高校で調べ物に利用したので、一般向けの学術専門書も入っていると良かったというご意見がありました。

<設問5>なくても良い、または使用しなかった資料がありましたらお書きください。

設問4と同様にこの設問でも利用の形態によって寄せられた回答にも違いが見られました。調べ学習に使用しなかった学校からは、知識の本、特に一般向けの資料は使わなかったので、なくても良かったというご意見がある反面、調べ学習で利用した学校からは逆に、絵本や読み物は使わなかったので、なくても良かったというご意見もありました。また、日本語のあらすじを添付したハングルの絵本を10冊ほど、韓国セットには含めていますが、このハングルの絵本について、添付しているあらすじだけでは内容をよく理解することができなかったため利用しなかったという回答が多くありました。詳しい日本語訳が添付されていれば、利用できたのではないかというご意見をいただきました。絵だけでもある程度親しむことができるような資料を選ぶ、あるいは、日本語に翻訳されているものがあれば、その翻訳本を参照しながら現地語資料を見ることができるようにするなど、より工夫が必要であることが分かりました。その他では、子どもたちが自宅へ持ち帰っての利用が規則

上できないため、じっくり読む資料より現地の子どもたちの生活がわかるような、例えば、写真集のように、ビジュアルに訴える資料が多いと良かったのではというご意見もありました。

その他、ご意見・ご要望などをお書きください。

これまでの設問では利用されなかった資料としてあげられることが多かったハングルの絵本を、ある学校では韓国語で読み聞かせたところ、子どもが言葉は分からなくても大変喜んでいたという感想を寄せていただいた学校や、ハングルの絵本を見ていた子どもが文字は分からなくても絵だけでもお話の内容がわかると子どもが話していました、と子どもたちが利用していた時の様子を書いていただいた学校もありました。また、自校図書館の資料の選書に大変役立ちましたという感想を書いていただいた学校もありました。その他では、新しい本を目にして、子どもたちが大変喜んでいましたというものや、このようなサービスがあって助かったという感想や、セットの種類やセット数を今後も充実させてほしいという要望や、利用案内の広報について教育委員会を通じた案内では学校に届くまで時間を要するので、学校に直接案内を送るなど工夫をしてほしいという要望や、今後も利用したいが、返却時の送料の負担が重いので、度々利用できないというご意見もありました。

3．ご意見やご要望をふまえて

これまで韓国、北欧というアジア、ヨーロッパの国々のセットを構築してきたこと、アンケートでアメリカに関するセットの希望が多かったことを踏まえ、アメリカ合衆国とその隣国で密接な関係にあるカナダで広く読まれている絵本や両国に関する資料を揃えた「カナダ・アメリカセット」（小学校高学年向きと中学校向きの2種類）を16年度に新設し、2学期分から貸出しいたします。（2学期貸出分の予約申込み受付は4月1日から30日までです。）また、貸出期間の設定もより利用しやすい時期になるよう、見直しました。

学校図書館に向けた国際子ども図書館の取り組みは、まだ始まったばかりのため、至らない点もあるかと思いますが、皆様からご意見・ご要望をいただき、今後のサービスに役立てて参りたいと思いますので、何とぞよろしくお願いします。

なお、33ページでご紹介する写真と文は、さいたま市立宮原中学校で生徒が北欧セットの資料を利用している様子を写した写真とこのセットを用いて行った2年生の国語の授業で、生徒が書いた読後の感想文を、同校のご好意により掲載させていただきました。

（児童サービス課）

✻・✻・✻・✻・✻・✻・✻・✻・✻・ 中学生の感想より（抜粋） ✻・✻・✻・✻・✻・✻・✻・✻・✻・

『Pelle alene i verden』（せかいにパーレただひとり）

「朝起きたら誰もいなくて外に出ても人が見つからない」という最初の展開は少し怖いものを感じました。子供の悪夢について描いているようです。面白いけど子供の恐怖心をそのまま描いているようだと思いました。

『オーラのたび』

ノルウェーのよいところを主人公オーラが旅をしながら見ていってくれてとてもわかりやすかった。厳しいはずの冬が優しい冬のように語られています。

『Pelles nya kladen』（ペレのあたらしいふく）

働き者のペレは自分でひつじの毛をかりとり糸を作ってもらい服を仕立て上げてもらうことにするなんてすごいなと思った。「ただ」ではなくて、しっかりとその分の働きをして服ができあがるペレの服。物の大切さがわかりました。

『Kanner du Pippi Langstrump』（長くつ下のピッピ）

この物語自体は知っているけれど、本の言葉は全然わからなかった。絵がおもしろかった。カラフルな色を使っててインパクトが強く人目をひくかな。私の考えていたピッピよりはるかに幼顔！ビックリしました。ひもがとれていて長くつ下もボロでした。

『ころころパンケーキ』パンが逃げていく話にびっくりしてしまいました。絵の表現がとても良かったです。

『Suomen lasten elainsadut』『ニルスの不思議な旅』『やかまし村の子どもたち』

北欧の本には、動物が出てきたり、自然（海や森や農家など）を舞台にしているものが多いようです。非現実的な「妖精」や「神」が出てくることも多いようです。

『Kuka lohduttaisi nyytia』（さびしがりやのクニット）

私の知っているムーミンとはかけはなれていて驚きました。スナフキンとミィが一番日本のものと似ていました。しかしムーミンは日本のムーミンと似ても似つきませんでした。「これがムーミン!?」と叫びそうになりました。文字がフィンランド語(?)のうえに、筆記体なので、ほとんどわかりませんでした。絵で読みました。

活動報告

(平成15年1月～12月)

1．展示会

国際子ども図書館では、子どもの本のもつ魅力を伝えるとともに、子どもと本との出会いの場を提供することを目的として、子どもの本と文化に関する展示会を3階「本のミュージアム」で行っている。

平成15年は、展示会を4回開催した。

○『占領期の子どもの本ーメリーランド大学所蔵プランゲ文庫児童書コレクションから』

〔平成15年2月1日(土)～4月13日(日)計59日：入場者数22,660人〕(メリーランド大学との共催)

プランゲ文庫は第二次世界大戦後の占領期の最初の4年間（1945年～49年）に、連合国軍最高司令官総司令部が行った検閲処分の実態を示す資料群であると同時に、この時期のすべての分野の刊行物をほとんど網羅しており、占領期の日本を理解する上で大変貴重な資料となっている。

この展示を通して、占領期の子どもたちを取り巻いていた社会・文化の状況や子どもに対する大人たちのメッセージを紹介した。

また、2月1日、関係者を招いて、開会式及びテープカットを行った。

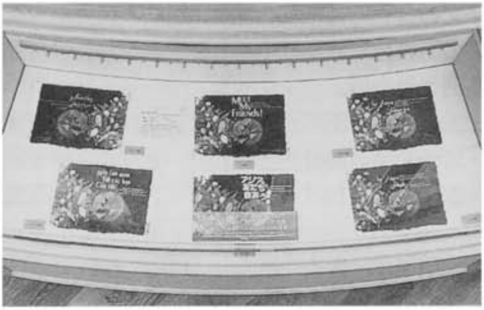
○『ゆめいろのパレットー野間国際絵本原画コンクール入賞作品アジア・アフリカ・ラテンアメリカから』

〔平成15年4月25日(金)～7月6日(日)計61日：入場者数23,468人〕

((財)ユネスコ・アジア文化センターとの共催)

(財)ユネスコ・アジア文化センターが、アジア、アフリカ、ラテンアメリカの絵本画家の活動を奨励するために隔年で開催している野間国際絵本原画コンクールの

最新の入賞作品33点を公開するとともに、国際子ども図書館が所蔵する同地域の国々の絵本約130冊の展示を行った。また、4月23日、関係者を招いて、開会式及びテープカットを行った。



ユネスコは、2001年「文化の多様性」を尊重する宣言を採択している。アジア、アフリカ、ラテンアメリカには豊かな口承伝統が存在し、絵本の原画と様々な絵本を通して、これらの地域の魅力あふれる物語の世界、多様な表現の方法を紹介した。

○『未知の世界へ―児童文学にえがかれた冒険―』

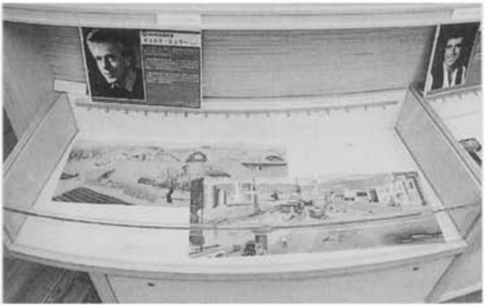
〔平成15年7月19日(土)～平成15年11月9日(日)計96日：入場者数32,002人〕

19世紀末から20世紀前半にかけて、欧米や日本では冒険小説が次々に出版され子どもたちを熱中させたが、時代と文明の発達を反映したこうした作品の多くは、現在では顧みられることが少なくなってきている。しかし、当時の子どもたちを夢中にさせた「冒険」は、今でも形を変えて生き続け、未知の世界へ読者を誘う。展示会では、冒険小説の誕生から発展、そして衰退までの流れをたどるとともに、現代のさまざまな「冒険」を描いた作品を紹介した。また、国際子ども図書館の池田宣政（南洋一郎）コレクションとイングラムコレクションについてもコーナーを設けて紹介し計約300冊の資料を展示した。資料に加え、『少年倶楽部』に掲載された挿絵原画（講談社より借用）を展示した。(本文8ページ～を参照)

○『国際アンデルセン賞　受賞作家・画家展』

〔平成15年11月15日(土)～平成16年1月11日(日)計41日：入場者数12,283人〕(日本国際児童図書評議会（JBBY）との共催)

2002年の IBBY50周年記念大会会場で展示された国際アンデルセン賞第1回からの全受賞者の著書と原画を中心に展示を行った。また、展示についての理解をより深めてもらうため、当館所蔵の日本語翻訳資料も併せて展示するとともに、日本人受賞者については別途特別コーナーを設け、その業績を紹介した。展示した原画は145点、資料は273点であった。



○巡回展示

2002年末から1月中旬まで国際子ども図書館で行った展示会「絵本に見る夢－ヨーロッパの国々から－」（シャルル・ペロー国際研究所との共催）の巡回展示を下記の日程で行った。普段、触れる機会が少ないヨーロッパの絵本を、延べ72,745人の方に見ていただくことができた。

巡回展示会場

・2003年1月28日～2月9日　市立米沢図書館（山形県）
・2003年2月18日～3月20日　延岡市立図書館（宮崎県）
・2003年4月10日～5月11日　大阪府立国際児童文学館（大阪府）

○常設展示「絵本の歴史」　3階ホール

「絵本の誕生」「発展の時代」「成熟する絵本」「アメリカへ渡った画家たち」「日本の絵本の発展」から構成され、絵本の歴史の変遷をたどることができる。子どもを対象とした初めての絵本、コメニウスの『世界図絵』をはじめ、当館が所蔵する資料により紹介している。

○常設展示「広報コーナー」　3階ホール

一昨年より開設した広報コーナーにおいて、当館の建物について理解を深めていただくために、大規模地震に備えて採用した免震工法及び漆喰についての説明パネルを作成し、当館の建物の特徴を伝えるとともに、2000年5月5日からの第一期開館時に行った展示会・イベントの説明パネルも作成し、当館がこれまで行ってきた活動もあわせて紹介している。

2．イベント

国際子ども図書館では、展示会に関連した講演会やさまざまな催し物を開催している。

○講演会「プランゲ文庫－日米協力のシンボル－」、「占領期の子どもの本と文化」

〔平成15年2月1日(土)：参加者108名〕

「占領期の子どもの本－メリーランド大学所蔵プランゲ文庫児童書コレクションから」展の関連行事として、メリーランド大学図書館長チャールズ・B・ラウリー氏に「プランゲ文庫－日米協力のシンボル－」、聖和大学大学院教授　鳥越信氏に「占領期の子どもの本と文化」

と題して講演していただいた。

○国際子ども図書館連絡会議

〔平成15年3月17日(月)〕

3階ホールにおいて、当館と協力関係にある15機関に、活動状況と今後の活動計画について報告するとともに、当館のサービスについて貴重な意見を伺うことができた。

○「子ども読書の日」行事

「子どもと本をつなぐために　わらべうた・昔話・ことば」

〔平成15年4月23日(水)：参加者64名〕

「子どもの読書活動の推進に関する法律」(平成13年12月12日制定・施行) によって、4月23日が「子ども読書の日」に定められたのを受けて、開催した。おはなし会に長年たずさわっている石川道子氏、秋葉恵子氏を講師に、子どもにとってのわらべうたや昔話のもつ意味、子どもと本をつなぐためのおはなし会の意義などについて伺うことができた。また、実際に幼児のためのおはなし会と小・中学生のためのブックトークを参加者に体験していただいた。

○ギャラリートーク「ゆめいろのパレット」

〔平成15年5月25日(日)：参加者約40名〕

野間国際絵本原画コンクール元審査委員を長く務められた松居直氏に、原画について鑑賞の手引きとなるようなお話をしてもらった。画家たちの素顔や、その年の社会情勢や文化までを含めた説明に、参加者は熱心に聞き入っていた。

○講演会「冒険小説の魅力について一池田宣政（南洋一郎）コレクションにふれながら一」

〔平成15年7月19日(土)：参加者64名〕

「未知の世界へ－児童文学にえがかれた冒険－」展の関連行事として、児童文学者二上洋一氏の講演会を行った。講演では、日本の冒険小説の作家や作品を中心にエピソードをまじえながら、人間像や作風を紹介していただいた。

○ギャラリートーク「未知の世界へ－児童文学にえがかれた冒険－」

〔平成15年９月14日(日)、10月12日(日)、11月２日(日)：参加者計123名〕

展示会期間中、各日13時と14時の２回計６回、行った。(本文８ページ～を参照)

○講演会「冒険小説への誘い－イングラムコレクションの楽しみ－」

〔平成15年９月27日(土)：参加者127名〕

「未知の世界へ－児童文学にえがかれた冒険－」展の関連行事として、国際子ども図書館客員調査員で青山学院大学名誉教授　神宮輝夫氏に、当館が所蔵しているイングラムコレクションを兼ねて、西洋の冒険小説の流れを時代背景とも関連づけながら、紹介していただいた。

○第５回図書館総合展

図書館関係者の情報交換の場として行われている図書館総合展が、11月４日(火)から６日(木)まで、有楽町の東京国際フォーラム展示ホールを会場に開催された。今年は、東京本館とブースを共にして参加し、会場内で広報のためのプレゼンテーションを行った。

○国際シンポジウム「国際アンデルセン賞の軌跡」

〔平成15年12月１日(月)：参加者220名〕

「国際アンデルセン賞　受賞作家・画家展」の関連行事として開催し、講師としてリーナ・マイセン氏（国際児童図書評議会（IBBY）前事務局長)、エイダン・チェンバース氏（2002年国際アンデルセン賞受賞者<作家賞>)、ジェイ・ヒール氏（2000年、2002年国際アンデルセン賞審査委員長）を招き、島多代氏（国際児童図書評議会（IBBY）前会長）をモデュレーターとして、平成15年12月１日(月)、東京国立博物館平成館大講堂において、国際シンポジウムを開催した。

(本文３ページ～を参照)

○見学ツアーの開催

平成15年７月から国際子ども図書館の魅力を伝えるため、週２回実施している。火曜日は「としょかんコース」と称し、日本で初めての国立の児童書専門図書館がどのような活動を行っているのかを中心に説明し、木曜日は「たてものコース」と称し、明治39年に創建された歴史的建造物の再建についての説明を中心に行っている。

(本文48ページの利用案内を参照)

3．児童サービス

○「子どものへや」「世界を知るへや」の小展示

昨年に引き続き、以下の小展示を実施した。子どもたちは、本の表紙に惹かれ、興味深そうに本を手にとり楽しんでいた。親子で同じ本を楽しむ姿もみられた。

また、廊下に面した小窓に、季節や行事にあわせて、本と一緒に折紙や人形を作って飾り、子どもに親しみやすい雰囲気作りを心掛けた。

＜子どものへや＞

「冬のほん」(2002年12月～2003年３月、12月)
「たのしい学校・ようちえん」「はるの本」(４月)
「だいすきなおかあさん」「おでかけしよう」(５月)
「かえるのほん」「雨のほん」(６月)
「ねこ」「なつの本」(７月～８月)
「お日さまお月さまお星さま」(９月)
「秋の本」(９月～11月)
「まほうの本」(10月～)

＜世界を知るへや＞

「世界の冬のおまつり」(2002年12月～2003年３月、12月～)

「絵本に見る夢展関連展示」(2002年12月～2003年１月)
「世界の料理」(３月～６月)
「ゆめいろのパレット展関連展示」(４月～７月)
「いろんな国の絵本を読もう」(７月～12月)
「未知の世界へ展関連展示」(７月～11月)
「国際アンデルセン賞展関連展示」(11月～)
「かずの本」「ABC の本」(通年展示)

○子どものための催物

＜子どものためのおはなし会＞

職員によるおはなし会を、毎週土曜日・日曜日の午後２時（４歳から小学１年生対象）と午後３時（小学２年生以上対象）の２回、実施した。2003年は合計192回、のべ1,522名が参加した。

おはなし会はストーリーテリングと絵本の読み聞かせで構成している。春休みやこどもの日には、普段のおはなし会の内容や対象を拡大して、大型絵本の読み聞かせやパネルシアターを実施した。

おはなし会は、初めて参加する子どもが多いが、何度も参加して楽しんでいる子も増えつつある。

＜科学あそび＞

7月26日(土)・27日(日)、塚原博氏（実践女子大学助教授）を講師に迎え、3階ホールで実施した。参加対象者を今年は小学3年生以上とした。

土曜日（参加者23名）は「風船の不思議ー空気についてのいろいろな実験ー」と題して、風船を使った空気の実験を行った。日曜日（参加者14名）は、「ふしぎな輪ー紙を使った実験ー」と題して、メビウスの輪のさまざまなバリエーションの実験などを行った。最後に、関係する図書を数冊紹介した。

参加者は少なかったが、参加した子どもたちは楽しそうに実験に取り組んでいた。

＜1枚の紙からミニ絵本作り＞

8月2日(土)・3日(日)、職員が講師となってワークルームで実施した。参加対象者は小学1年生以上とした。両日合わせて51名だった。

最初に『本の歴史5000年』（福音館書店）により、紙や印刷、本の歴史を紹介した。その後、1枚の紙に切り込みを入れて小さな本を作り、子どもたちに絵や文字を自由に書いてもらった。事前にお話をしっかり考えてきた子どもから、当館で用意した木の絵に、四季の木の様子を書き込んで絵本を作る子どもなど様々であった。

＜小さな子どものための絵本の時間＞

10月の毎週土曜日・日曜日の午後1時から、3歳以下の子どもとその保護者を対象としたおはなし会を実施した。内容は、わらべうたと幼児向き絵本の読み聞かせであった。合計8回実施し、のべ50組101名の参加があった。

アンケートの結果は非常に好評で、継続を求める声が多く寄せられた。16年度は月1回土曜日・日曜日に、定例化とすることとした。

＜おたのしみ会＞

12月20日(土)・21日(日)、おたのしみ会を実施した。内容は、大型絵本の読み聞かせ、パネルシアター、人形劇『なぞなぞのすきな女の子』の上演であった。両日とも、来館者が非常に少ない日であったが、39名が参加した。通常のおはなし会に参加しても落ち着きがなくおはなしを聞くことができない子どもや、反応があまりない子どもが、おたのしみ会で

は全体を通してよく聞いて楽しんでおり、会の終了後、人形劇の原作本を職員に尋ねてくるなど、通常のおはなし会に比べて、より広範囲の子どもたちを本の世界につなげることができた。

○子どもの見学

1月から12月までに、49件1,058名の見学を実施した。見学団体は、保育園、幼稚園から小・中学校、養護学校、インターナショナルスクールや日本語学級と多様である。昨年に引続いて来館した団体もあった。

内容は、館内見学（子ども向け当館ビデオの視聴を含む）、おはなし会、調べ学習の援助などを希望により組み合わせて対応している。地方の学校が修学旅行の課題である調べ学習や職場訪問で来館するケースが多くあった。中学生は調べ学習、小学生以下はおはなし会の希望が多かった。

4．学校図書館セット貸出し

昨年に引き続き児童書等の学校図書館セットに加えて貸出しを実施した。

平成14年11月から開始した「韓国セット」に加えて、平成15年6月より「北欧セット」、平成16年1月より小学校低学年を対象とした「世界を知るセット」の貸出しを開始した。

（本文28ページ～を参照）

5．刊行物

パンフレット『国際子ども図書館』

同英文版『The International Library of Children's Literature』

『国際子ども図書館の窓』

図録　『未知の世界へ－児童文学にえがかれた冒険－』

案内リーフレット『国際子ども図書館』

同英語版、同ハングル版、同中国語版

◆職員の死亡通知◆

国際子ども図書館児童サービス課　司書　山岸和美氏は、平成15年10月22日に死去いたしました。

子どものころからよく本を読み、児童文学にも詳しかった彼女は、いつも人懐っこい笑顔でストーリーテリングなどをとおして、子どもたちに本のおもしろさを伝えてくれました。

謹んでご冥福をお祈りします。

数字で見る！

国際子ども図書館

（1） 国際子ども図書館所蔵統計（平成15年12月31日現在）

資料室	図書（単位：冊）		日本語	児童書（＊1）		162,117
				学校教科書		901
				教師用指導書		1,821
				児童書関連参考書		11,467
				小計		176,306
			外国語	児童書（＊1）	欧米言語	25,963
					アジア言語	11,691
				児童書関連参考書		1,471
				小計		39,125
			計			215,431
	逐次刊行物（単位：タイトル）	雑誌	日本語	児童雑誌		871
				児童関連誌		671
			外国語	欧米言語		62
				アジア言語		34
			小計			1,638
		新聞	日本語			14
			外国語			1
			小計			15
	非図書資料（＊2）（単位：点）	静止画・紙芝居				712
		カード・カルタ				119
		マイクロフィルム				36
		マイクロフィッシュ				28,217
		音楽資料（レコード、CD、カセットテープ）（＊3）				451
		映像資料（ビデオテープ・ディスク）				773
		電子資料（光ディスク、磁気ディスク）				129
子どものへや 世界を知るへや	図書		日本語			11,245
			外国語			253
			小計			11,498
	逐次刊行物（単位：タイトル）					22
メディアふれあいコーナー	電子資料					148

＊1 学習参考書、楽譜、「組合せ資料」を含む。
＊2 教師用指導書・児童書関連参考書のうち非図書形態のものの数を含む。
＊3 教師用指導書のみ（児童用音楽資料は未所蔵）

(2) 国際子ども図書館利用統計（平成15年1月5日～12月27日）

1）来館者統計＊平成12年5月6日～平成15年12月27日までの総入館数：391,801人

	合計			曜日別内訳								
				火曜～金曜			土曜			日曜		
	日数	人数		日数	人数	平均	日数	人数	平均	日数	人数	平均
		総数	子									
1月	22	8,117	1,143	15	4,337	289	3	1,599	533	4	2,181	545
2月	23	10,177	1,373	15	5,374	358	4	2,587	647	4	2,216	554
3月	24	13,028	1,765	14	5,828	416	5	2,918	584	5	4,282	856
4月	25	13,068	1,546	17	7,458	439	4	2,185	546	4	3,425	856
5月	26	15,604	2,201	17	6,882	405	4	2,540	635	5	6,182	1,236
6月	25	11,203	1,476	16	5,757	360	4	2,376	594	5	3,070	614
7月	26	11,489	1,983	18	6,739	374	4	2,224	556	4	2,526	632
8月	27	15,368	3,179	17	9,397	553	5	2,597	519	5	3,374	675
9月	23	10,331	1,300	15	5,473	365	4	2,256	564	4	2,602	651
10月	27	12,855	2,022	19	7,478	394	4	2,413	603	4	2,964	741
11月	24	13,691	2,055	15	6,445	430	5	3,635	727	4	3,611	903
12月	22	8,760	946	15	4,985	332	4	1,998	500	3	1,777	592
合計	294	143,691	20,989	193	76,153	395	50	29,328	587	51	38,210	749

2）「資料室」利用統計

	利用状況			資料室別			
				第1資料室		第2資料室	
	開室日数	人数	平均	人数	平均	人数	平均
1月	18	1,261	70	812	45	449	25
2月	19	1,507	79	941	50	566	30
3月	19	1,540	81	992	52	548	29
4月	22	1,461	66	902	41	559	25
5月	21	1,855	88	1,166	56	689	33
6月	20	1,484	74	956	48	528	26
7月	22	1,725	78	1,137	52	588	27
8月	22	2,262	103	1,480	67	782	36
9月	19	1,502	79	985	52	517	27
10月	23	1,621	70	1,065	46	556	24
11月	20	1,590	80	1,028	51	562	28
12月	19	1,184	62	749	39	435	23
合計	244	18,992	78	12,213	50	6,779	28

3）本のミュージアムの統計は「活動報告」を参照のこと。

4）「子どものへや」利用統計

	利用状況						
	開館日数	人数	平均	大人		子ども	
				人数	平均	人数	平均
1月	22	4,437	201	3,321	151	1,116	50
2月	23	4,375	190	3,381	147	994	43
3月	24	6,557	273	5,004	208	1,553	65
4月	25	6,041	241	4,616	184	1,425	57
5月	26	8,384	322	6,259	240	2,125	82
6月	26	5,455	218	4,133	165	1,322	53
7月	26	6,217	239	4,541	175	1,676	64
8月	27	10,630	394	7,409	275	3,221	119
9月	23	5,738	249	4,442	193	1,296	56
10月	27	6,391	236	4,770	176	1,621	60
11月	24	7,422	309	5,479	228	1,943	81
12月	22	4,007	182	3,191	145	816	37
合計	295	75,654	256	56,546	191	19,108	65

5）「ホール」入場統計

	利用状況		
	開室日数	人数	平均
1月	22	4,422	201
2月	23	5,348	233
3月	24	7,231	301
4月	25	6,485	259
5月	26	8,314	320
6月	25	5,995	240
7月	26	5,697	219
8月	26	9,310	358
9月	23	4,768	207
10月	27	6,106	226
11月	24	6,697	279
12月	22	3,701	168
合計	293	74,074	253

6）複写サービス利用統計

	来館複写		郵送複写				
			公共	大学	他	計	
	件	枚	件	件	件	件	枚
1月	120	2,519	21	32	11	64	1,148
2月	147	2,721	15	33	0	48	590
3月	180	4,123	39	6	24	69	944
4月	221	3,233	9	17	14	40	1,263
5月	210	4,245	24	2	11	37	922
6月	201	2,919	11	3	8	22	1,513
7月	297	4,273	12	5	5	22	1,220
8月	436	6,973	11	4	6	21	820
9月	268	4,020	28	11	1	40	842
10月	280	3,715	2	31	39	72	821
11月	229	4,524	0	48	6	54	478
12月	201	3,250	2	1	7	10	634
合計	2,790	46,515	174	193	132	499	11,195

7）資料出納統計

	出納（第1＋第2資料室）	
	件	冊
1月	880	1,911
2月	921	2,038
3月	1,025	3,149
4月	1,202	2,751
5月	1,018	2,583
6月	945	2,306
7月	1,200	2,901
8月	1,841	3,756
9月	1,518	2,859
10月	1,469	3,131
11月	1,476	3,094
12月	1,172	4,073
合計	14,667	34,552

8）レファレンス統計

		月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	小計
類縁機関案内	文書		0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
文献紹介	文書		0	11	3	4	3	1	3	0	1	5	6	1	38
	電話		3	3	2	6	6	4	2	4	3	2	2	0	37
	口頭		10	11	9	4	27	5	10	14	7	14	6	11	128
簡易な事実調査	文書		1	4	3	7	5	0	3	0	1	2	4	2	32
	電話		4	8	7	2	4	5	6	3	5	1	1	2	48
	口頭		12	3	8	9	9	6	3	12	8	6	8	3	87
書誌的事項調査	文書		14	3	7	6	11	5	4	4	5	10	2	2	73
	電話		4	7	6	5	3	3	9	2	2	3	2	1	47
	口頭		7	0	3	2	6	3	2	11	3	5	2	2	46
所蔵調査	文書		51	1	5	6	4	39	6	1	7	3	1	2	126
	電話		25	19	24	21	35	30	37	44	27	30	19	14	325
	口頭		35	59	49	35	66	32	38	60	43	44	49	32	542
所蔵機関調査	文書		1	3	1	0	2	2	1	0	1	1	0	2	14
	電話		8	1	8	2	5	4	8	6	2	1	4	1	50
	口頭		6	15	5	7	8	6	4	12	7	9	9	7	95
利用案内	文書		0	0	0	0	0	0	1	0	3	0	0	0	4
	電話		16	7	14	13	19	28	27	12	22	21	11	13	203
	口頭	検索援助	70	79	36	37	73	53	28	33	23	44	41	11	528
		その他	43	81	90	59	127	77	51	85	40	45	57	33	788
その他	文書		0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	電話		7	8	7	4	4	4	14	14	7	10	5	2	86
	口頭		21	61	31	33	31	29	31	45	27	31	34	4	378
小計	文書		67	22	19	23	26	48	18	5	18	21	13	9	289
	電話		67	53	68	53	76	78	103	85	68	68	44	33	796
	口頭		204	309	231	186	347	211	167	265	158	198	206	103	2,585
総計			338	384	318	262	449	337	288	355	244	287	263	145	3,670

9）資料館外貸出統計

	合計	内訳						
		国会議員	図書館					展示会
			行政支部図	公共	大学	専門	海外	
	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊
1月	26	1	0	19	4	0	2	0
2月	21	6	0	2	13	0	0	0
3月	14	3	0	10	1	0	0	0
4月	66	11	0	24	22	0	9	0
5月	68	8	0	46	13	0	1	0
6月	42	2	0	19	19	1	1	0
7月	63	3	0	38	21	0	1	0
8月	37	1	0	29	6	1	0	0
9月	63	21	7	28	7	0	0	0
10月	41	3	0	36	2	0	0	0
11月	37	5	1	26	3	2	0	0
12月	47	14	0	28	5	0	0	0
合計	525	78	8	305	116	4	14	0

10）国際子ども図書館見学実績

	企画課協力課		児童サービス課		合　計	
	件数（件）	人数（人）	件数（件）	人数（人）	件数（件）	人数（人）
1月	17	267	3	66	20	333
2月	22	188	4	120	26	308
3月	23	218	4	45	27	263
4月	13	63	5	36	18	99
5月	15	194	5	55	20	249
6月	21	214	4	17	25	231
7月	37	476	7	215	44	691
8月	35	517	2	8	37	525
9月	24	303	2	35	26	338
10月	27	365	8	210	35	575
11月	23	326	3	109	26	435
12月	13	148	2	111	15	259
合計	270	3,279	49	1,027	319	4,306

11）ホームページ訪問者統計

	1日平均訪問者	1日ページ参照平均	月訪問者	月ページ参照	再訪問者数
1月	787	3,576	24,402	110,868	2,190
2月	791	3,660	22,174	102,505	2,056
3月	671	3,071	20,808	95,213	1,835
4月	886	3,783	26,604	113,513	2,396
5月	999	4,218	30,990	130,785	2,766
6月	890	3,882	26,708	116,484	2,530
7月	909	4,104	28,193	127,239	2,612
8月	942	3,804	29,227	117,943	2,320
9月	1,059	3,609	31,770	108,296	2,366
10月	895	2,933	27,764	90,951	2,117
11月	735	2,702	22,070	81,066	2,116
12月	623	2,148	18,708	64,445	1,834
平均	883	3,664	26,864	111,380	2,319
合計			151,686	669,368	13,773

12）国（地域）別 HP アクセスベスト6

	1位	2位	3位	4位	5位	6位
1月	アメリカ合衆国	台湾	ココス諸島	ドイツ	シンガポール	イギリス
2月	アメリカ合衆国	香港	カナダ	台湾	シンガポール	ココス諸島
3月	アメリカ合衆国	台湾	ココス諸島	カナダ	香港	フランス
4月	アメリカ合衆国	台湾	香港	ココス諸島	シンガポール	ドイツ
5月	アメリカ合衆国	台湾	ココス諸島	シンガポール	カナダ	香港
6月	アメリカ合衆国	台湾	ココス諸島	香港	シンガポール	カナダ
7月	アメリカ合衆国	台湾	ドイツ	ココス諸島	シンガポール	香港
8月	アメリカ合衆国	カナダ	台湾	イギリス	香港	オランダ
9月	アメリカ合衆国	カナダ	台湾	イギリス	香港	オーストラリア
10月	アメリカ合衆国	カナダ	イギリス	台湾	香港	オーストラリア
11月	アメリカ合衆国	台湾	シンガポール	カナダ	イギリス	オランダ
12月	アメリカ合衆国	シンガポール	台湾	カナダ	フランス	ドイツ

これから…

国際子ども図書館の今後の予定をご紹介します。

＜2004年＞

3月6日～3月30日
展示会「いろのまほうつかい　－エリックカール絵本の世界－」

3月6日　オープニングセレモニーと関連イベントあり

4月17日～9月5日
展示会「蓮の花の知恵－インドの児童文学」
インドの説話集『パンチャタントラ』は、日本の『今昔物語集』などに影響を与えている。本展では、このような、インドの伝承文学とその伝播を紹介する。インドの文化を知るてがかりとしたい。

4月23日　子ども読書の日イベント

5月　講演会「インドの伝承文学について」（仮称）

5月5日　子どものための「こどもの日」おはなし会（仮称）

7月末　子どものための催物　「1枚の紙からミニ絵本作り」（仮称）（予定）

9月18日～2005年4月
展示会「動物展－十二支を手がかりに－」（仮称）

9月　演奏会
「芸大とあそぼう～ゆかいな動物園～」（仮称）（東京藝術大学との共催）

9月～　「動物展」関連イベント予定
学校図書館セット貸出し
「カナダ・アメリカセット（仮称）」貸出し開始（予定）

12月　子どものための「冬休み」おはなし会

＜2005年＞

3月　「国際子ども図書館の窓　第5号」刊行
子どものためのおたのしみ会

また、年間を通してさまざまな行事を企画します。詳しくは当館ホームページ(http://www.kodomo.go.jp/)をご覧いただくか、下記へお問い合わせください。

国際子ども図書館　TEL　03（3827）2053

利用案内

☆来館利用案内

利用できる人	どなたでも利用できます（ただし第一資料室・第二資料室の利用は満18歳以上の方に限られます）。
所蔵資料	国内で出版された児童図書、児童雑誌、外国語の児童書、児童書関連図書・雑誌等。
資料の利用	館内利用のみ。館外への帯出はできません。
資料請求	9：30～16：30（於第一資料室・第二資料室）
開館時間	9：30～17：00
休館日	月曜日、国民の祝日・休日（こどもの日を除く）。年末年始（12月28日～1月4日）、資料整理休館日（毎月第3水曜日）。
休室日	休館日のほか、以下の日が休室日となります。 2階第一資料室・第二資料室：日曜日 3階本のミュージアム：展示会準備等のための休室日

☆レファレンスサービス

児童書・児童文学、児童図書館活動等に関するお問い合わせについて、所蔵調査、所蔵機関調査、書誌的事項調査、簡易な事実調査、文献紹介等を行います。

申込み方法は、以下のとおりです。

◆直接来館　　　第一・第二資料室にて受付

◆文書レファレンス　最寄りの図書館経由で、郵送・ファクシミリにより受付

◆電話レファレンス　資料室開室時間中のみ。

※電話では所蔵調査、利用案内、書誌的事項調査（目録記載程度）などについて件数を限って受付けています。資料を直接確認しなければならないなどの時間を要する調査、および聞き間違いが生じやすい外国語文献についてのレファレンスは文書でお願いします。

☆複写サービス

著作権法の範囲内で、国際子ども図書館所蔵資料の複写（有料）を申し込むことができます。

◆来館による申込み

その日のうちに製品をお渡しする即日複写と、後日製品を受け取る後日引渡しの複写の二種類があります。

申込受付時間　　開館日の10：00～16：00（後日渡しは16：30まで）

製品引渡し時間　10：30～12：00、13：00～16：30

後日引渡しについては、郵送により製品を受け取ることもできます。この場合、料金は後払い（振込）となります。

即日複写は、電子式複写（普通のコピー。白黒・カラー）で、1回につき80

頁以内のお申込の場合に限ります。80頁以上の電子式複写、マイクロ複写（複写過程に撮影作業のある複写）は後日引渡しとなります。

◆文書による申込み

所定の書式を用いて、ファクシミリ（図書館経由のみ）・郵送による複写の申込み・製品の郵送も受け付けています。料金は後払い（振込）です。詳細は当館資料情報課情報サービス係までお問い合わせください。

☆図書館協力による全国サービス

国際子ども図書館は、各種図書館への支援を通じて全国の利用者に対する図書館サービスを展開しています。満18歳以上の方ならどなたでも最寄りの図書館を通して当館のサービスを利用できます。

◆レファレンスサービス、複写サービス

上記のそれぞれの項をご覧ください。

◆図書館間貸出

当館の「図書館間貸出制度」に加入する図書館等の機関のみが対象となります。詳細は当館資料情報課情報サービス係までお問い合わせ下さい。

※雑誌や昭和25年以前刊行の図書など、貸出できない資料もあります。また、貸出資料は借受館の閲覧室内での閲覧のみとし、借受館での複写はできません。なお、国立国会図書館所蔵資料については国立国会図書館にお問い合わせください。

☆図書館見学ツアーについて

「としょかんツアー」（毎週火曜日）と「たてものツアー」（毎週木曜日）を実施しています。いずれも14時スタートです。電話もしくは来館で申し込みを受け付けています。またツアーとは別に見学も行っています。詳しくは国際子ども図書館にお問い合わせください。

☆学校図書館へのセット貸出し

子どもの読書活動において重要な役割を担う学校図書館への支援を目的として、テーマごとに約40～50冊で構成する資料のセットを貸出します。

◆セット（平成16年１月現在）

「韓国セット」「北欧セット」（各セットとも小学校高学年向きと中学校向きの２種類）、「世界を知るセット」（小学校低学年向きのみ１種類）

◆貸出期間・費用

１か月間。セットを当館に返却する際の送料のみ学校図書館でご負担ください。

その他、詳細につきましては、当館児童サービス課企画推進係（内線308）までお問い合わせください。また、当館ホームページ（http://www.kodomo.go.jp/）でもご案内していますので、ご覧ください。

国際子ども図書館の窓　第4号　2004.3

発行所	国立国会図書館　国際子ども図書館　平成16年3月1日発行
編集責任者	富田　美樹子
〒110-0007	東京都台東区上野公園12-49 電　話　03（3827）2053（代表）　FAX　03（3827）2043 E-mail　info@kodomo.go.jp　ホームページ http://www.kodomo.go.jp/
印刷所	株式会社 山越

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分はそれぞれ筆者の個人的見解です。
本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜粋して転載される場合には、事前に国際子ども図書館企画協力課協力係に連絡してください。

The Window
the journal of the International Library of Children's Literature
No. 004 March 2004

Contents

Frontispiece : Activities at the ILCL

Foreword ············ Mikiko Tomita ············ 2

International Symposium on the History of the Hans Christian Andersen Award ············ 3

Comments on the International Symposium on the History of the Hans Christian Andersen Award ············ Tayo Shima ············ 5

Exhibition "Venture into the Unknown—Various adventures described in children's literature—" ············ Exhibition team ············ 8

Providing children's services in the ILCL ············ Mariko Shimamoto ············ 13

Special feature :
We will look for the book that has stayed in your memory
—References service of the ILCL : focusing on cases of identifying stories— ············ 14

Reference questions that I will never forget ············ Kikuko Sugiyama ············ 22

Children's books from abroad in the ILCL collections :
The Russian children's books from the Kanako Tanaka Collection ············ Sayaka Matsuya ············ 24

One year after starting the Book Sets Lending Service to School Libraries (report) ············ 28

ILCL activity report ············ 34

ILCL in figures ············ 42

Schedule ············ 46

User's guide ············ 47

NATIONAL DIET LIBRARY
Tokyo